



# Anchor

アンカー

INSIDE

巻頭言 2

コロナウィルスの世界的流行 5

合衆国憲法修正第一条で保障された権利は、  
現コロナウィルス危機の間は不可欠でないのか? 12

地球の歴史6千年?! 14

これからの研究課題 35

"much to Learn, much to Unlearn"

64号

2020年 8月

# 巻頭言

津嘉山繁先生は「再臨信徒よ『もう一度!』」という本を書き遺されました。

我々は、黙示録10章の「小さい巻物」を過去の1844年当時の大失望の経験にのみ適用しますが、エレン.G.ホワイトは「もう一度預言せよ」を最終時代の我々に適用しています。

最近、預言の研究を綿密にすることが少ない。エマオへの途上、二人の弟子たちは、主イエスの預言によって「お互いの心が内に燃えたではないか」という経験をしました。なぜか我々はリバイバルを他の教会に真似ようとする傾向があるのではないのでしょうか。

「イエスは非常に熱心に預言を説明し、神のみことばのもと綿密な研究に人々を目覚めさせようとした」 1 希望180。

「イエスをご自分を彼らに現される前から、彼らは、『新たに生れさせ』られ、『生ける望みをいだかせ』られた。彼らの理解を明らかにし、『確実な預言の言葉』の上に信仰を確立させることが、イエスの目的であった」 大争闘下42。

「ダニエル書と黙示録がよりよく理解されるならば、信者たちは全く異なる宗教経験を持つようになるでしょう」 聖霊に導かれて下135。RH1890年に言われた言葉。

「民としてこの書の意味することを理解するとき、我々の間に大リバイバルが見られるであろう。この書を探究し学ぶように、という指示が我々にあたえられているにもかかわらず、この書がおしえている教訓を、我々はまだ十分に学んでいない」。聖霊に導かれて下134RH1890年の言葉。

漸進的に神が与えられる預言の光を研究している方々の成果に預かり、私も非常に祝福されている。花婿イエスの来られる時がもう非常に近づいていると感じさせる研究を紹介します。浮上してきた地上歴史6千年説を一つの研究として載せました。各自で確信を持てるように研究してください。この誌の最後にも書いてあるように「私たちは多くの事を学び(learn)、またさらに多くの事を学びなおさなければ(unlearn捨て去る)なりません」。今こそ目覚める時です。喜びと確信と希望を与えるメッセージを神は再び与えつつあります。

---

## 最近のニュースを見て

記録的な豪雨に見舞われた九州南部。熊本県では球磨川など河川の氾濫や土砂崩れが相次いだ。毎年のように起きる予測不可能な記録的豪雨。もはや水害はどこで起きても不思議ではない。被害にあった方々は「こんなこと初めて」「次から次へと信じられないことです」と表現している。AERA 2020年7月13日号より:

水害に「今まで大丈夫だった」は通用しない 埼玉、東京、福岡…浸水リスクが高い自治体。

災害は地震だけではない。毎年のように大雨による水害が各地で牙をむく。もはや「記録的豪雨」はいつでも起きてもおかしくない状況になった。これまでの雨の降り方であれば、災害を防ぐことはできた。だが近年、雨の降り方は変わり、いつでも大雨が降るかわからず水害が起きやすくなったと指摘する。

自然災害、疫病、地震、戦争等々もテレビではキャスターも専門評論家も「何十年、何百年ぶりに」と表現する。しかし、聖書の預言的な観点から考えた場合、終わりに近づくとつれてそれらのことは「あちらこちらに」ますます頻繁に世界的に起こることが分かる。今度の大雨による被害は、日本だけでなく、今中国でも起こっている

る。「中国政府は7日、洪水警戒レベルを4段階中3に引き上げた」とある。

それに今度の水害は、新型コロナウイルスの難問題に追い打ちをかけるように襲ってきた。関係者は、「三密」を避けるようにとの悲痛な訴えをしていたのに、今度は豪雨被害による避難所での新型コロナウイルス対策問題で悩まされている。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということわざがあるが、災害が過ぎると、すぐこの世の楽しみに群がり集まる様、これが人間の習性であろう。讚美歌を思い出す。「たからも名もながるる 水のうへの月かげ、ありてなきをな どかは追わん、わが富こそイエスキミ」。

「悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって」人類を滅ぼそうとますます、あらゆる方法で働く時代に私たちは住んでいる。

エレン.G.ホワイトは、1844年に次のように預言した。

「サタンは、自分のたくらみを押し進めるために、ある者たちには恩恵と繁栄を与える。そして、他の者たちには災いをもたらして、人々に、彼らを悩ませているのは神だと信じさせようとする…。しかもこの大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。天の神の不興を引き起こしてきた人たちは、すべての災いを、神の戒めに服従することによって絶えず違反者たちへの譴責となっている人たちのせいにする。日曜安息日を犯すことは神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される。また、第四条の要求を主張して日曜日尊重を傷つける者は民を悩ます者であって、神の恩寵とこの世における繁栄の回復(原文)とを妨げている、と宣言される」大争闘下352～353。

サタンは、①ある者たちには恩恵と繁栄を与える。②ある者たちには災害を与える。③そしてこれらの災難の原因は神だと思わせる。そうして、④真の安息日を守る民に原因があるとして迫害することになる。

このラウダート・シ「太陽の賛歌」からとられた言葉、その237条には、環境保護のために、特に日曜日を安息日として休むことが提唱されている。このことについてはアンカー63号に掲載した。

毎日、まさに耳に聳腑たこができるほど聞かされている言葉は「**新型コロナウイルス**」。

いつ終息するのだろうか。自粛、解除、感染拡大の繰り返し。人々は、世界はどうなるのだろうか、どこへ向かっているのだろうかという不安と恐怖を共有している(ルカ21:29)。ラウダート・シを宣伝するバチカンの機関である「REPAM」というのがある。「人類共通の家」「共通の宗教」を作るための機関の一つである。

バチカンレポートに、**COVID-19(新型コロナウイルス)の危機の後**、「ラウダート・シ」は**将来のパンデミックから我々を救う**、という記事があった。

「我々はCOVID-19の最も困難な危機を乗り越えたら、…私たちはそれを踏まえて私たちの**すべての生き方と社会構造を再考する必要がある**。… 私たちは、総合的なエコロジーのビジョンに照らして社会全体を再現する必要があります。そうしないと、別のパンデミックがすぐにさらに大きな被害をもたらします。すべての惑星危機の中で最も深刻なものである気候緊急事態は、**文明として私たちを終わらせます。私たちが今変わらなければ…**」

米国のキッシンジャー元大統領補佐官も同じように「**ポスト・コロナ世界新秩序への移行**を準備しなければならない」と呼びかけている。

ポスト・コロナ、すなわち、コロナパンデミック(世界的大流行)の後に、新世界秩序の構築を考えているのであろう。

アメリカの分断、混乱現象は、間もなく「龍のように物を言う」、神の律法を変え「先の獣の像」を作り、「獣=ローマ法王教を拝ませる」ような法律を作ることであろう。「日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される」日曜強要令と「神の恩寵とこの世における**繁栄の回復(原文)**とを妨げている」とどんな関係があるのだろうか。預言によると神の恩寵のゆえに自由を享受してきたアメリカは豹変する。

11月の大統領選挙は、かつてないほど注目すべきできごとになるであろう。トランプ大統領が苦境に追いやられている中、今のところジョン・バイデンの人気が大きく上回っている。彼はイエズス会士であることを忘れてはならない。然し、どんなどんでん返しが待っているか分からない。誰が次の大統領になるにしても、アメリカは黙示録13章の預言を成就するであろう。

何と厳粛な時代に我々は住んでいることであろう!

「我々が**最後の危機に近づく時**、主の器たちの間に調和と一致が存在することは極めて重要である。世界は嵐と戦争と不和で満ちている。しかし一つの頭—ローマ法王権—の下で、人々は神の証人を装って、神に敵対するために一致するであろう。大いなる背教者によって、この連合は固められつつある」最終時代の諸事件 76, 7T182(1902年)。

新世界秩序が構築され、迫害の嵐が吹くとき、神ご自身が後の雨/大いなる叫びをもって介入なさる。

「敵が洪水のように押し寄せるときに**主の霊はそれに向かって旗を掲げられる**」イザヤ59:19欽定訳。後の雨/大いなる叫びが日曜遵守令の前に起こることはない。日曜遵守令によって教会は大いにふるわれる。

「あらしが 迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる」大争闘下378。

こんな約束がある:

「私たちに対する迫害がひどくなると、真の羊たちは真の羊飼いの声に聞き従います。自己否定の努力が失われた者たちを救うためになされ、群れから迷い出た多くの人たちが偉大な羊飼いに従うために帰ってきます。神の民は団結し、敵に対して統一戦線を張ります」 TM693。

「エルサレムは神がお与えになった光に従うことを拒むなら、教会はどうなるかということを描写している。... そのようにキリストが我々の教会のために、学びの機関のために、神の**要求を満たすことに失敗したため、泣いておられる**」 8T67,68。



サンライズミニストリー代表 金城重博

# コロナウィルスの世界的流行



2019-NCOV  
CORONAVIRUS  
COVID-19

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. sed  
diem nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna  
aliquam erat volutpat. Ut wisis enim ad minim.

ハル・メイヤー牧師 砂川満訳

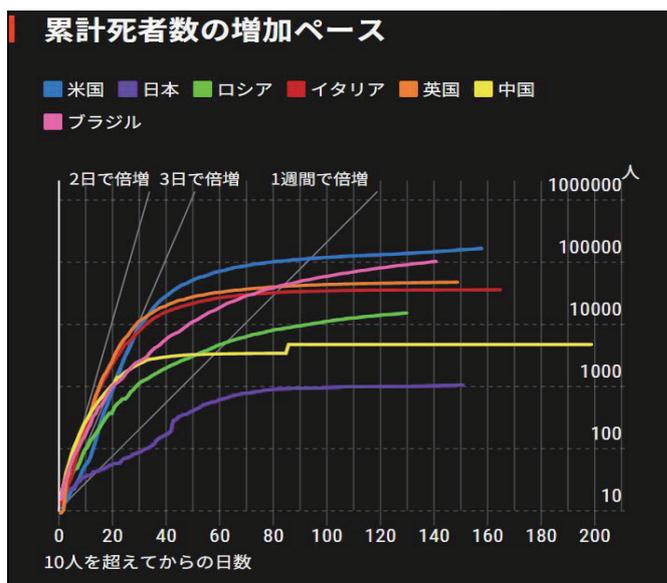
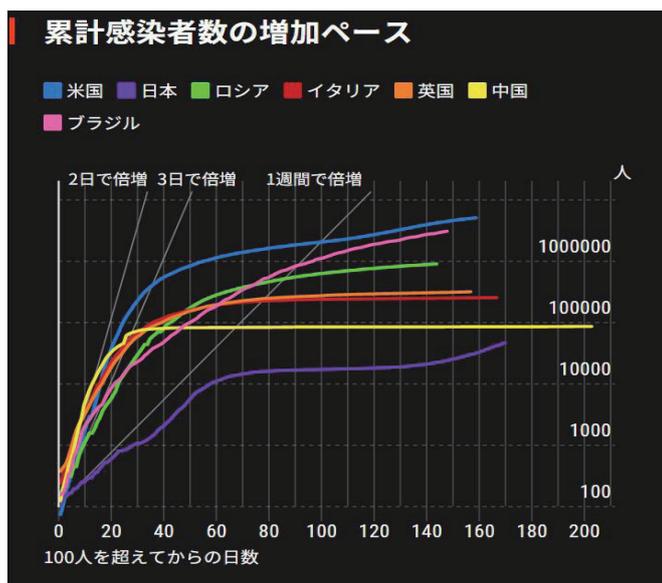
生命を脅かすコロナウィルスが、現在急速に拡大している。あなたがこの記事を読むころには収束に近づいているかもしれないが、ここでは特に霊的原則について考察したいと思う。

※ ハル・メイヤー牧師の記事は2月に書かれたので、データは最近のものに変えた(2020.08.10現在)。現時点での世界の感染者1980万人超、累計の死者数は世界で73万人に達した。

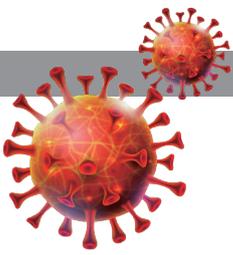
「百聞は一見に如かず」なので、図表、グラフを載せておく。新型コロナウイルスがどれほど恐ろしいかについては、テレビや新聞、その他のメディアで重々知らされていると思う。<https://medley.life/news/5e390f2d6158e140a8122862/>

国別の累積死者の増加ペースはどうなっているか。横軸は累計死者が10人を超えてからの日数を、縦軸は累計死者を示す。縦軸は10、100、1000と10倍ずつ増える対数目盛りにした。死者が10人を超えてから1000人の1万人に到達するまでの日数は英国と米国が32日目、イタリアが33日目、ブラジルが49日目だった。

<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-chart-list/>



国別の累積感染者の増加ペースをしてみる。横軸は累計感染者が100人を超えてからの日数を、縦軸は累計感染者数を示す。縦軸は100、1000、10000と数が10倍ずつ増える対数目盛りにした。傾きが増加のペースで、垂直になるほど増加は速く、水平に近づくほど遅い。ブラジルは拡大が続いており、米国は再び増加ペースが上がっている。米国は57日目、ブラジルは98日目で1万倍の100万人に到達した。



## 世界全体

WHOの集計で1日あたりに確認された新規感染者数を見ても、7月6日は世界全体で20万2545人となり、3日連続で20万人を超えた。6月25日から15万人超えが続いている。4月上旬に欧州や北米の感染爆発はピークを迎えたが、5月に入ると中南米やアジアで感染が本格化。最近では中南米だけで7万人を上回る日もある。

6月19日にWHOのテドロス事務局長は「パンデミックは加速している」と表明した。

## 新型コロナウイルスのあらゆる分野に与える影響

「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」について令和2年4月7日閣議決定より：

「感染症は内外経済に甚大な影響をもたらしており、世界経済は、戦後最大とも言うべき危機に直面している。我が国経済は、感染症拡大の影響により大幅に下押しされており、国難とも言うべき厳しい状況に置かれている。回復を支えてきた内需のうち、個人消費はサービスを中心に、イベントの中止や自粛・外出控えにより、消費者マインドの悪化も相まって停滞に陥っている。また、設備投資は、感染症拡大以前から中国経済の減速の影響等により横ばい傾向となる中で、感染症の影響による業況悪化、そして先が見えないという不確実性の大きさが企業の投資意欲を萎縮させる要因となっている」。

経済、企業、医療、教育、スポーツ、観光、エンターテインメント、交通機関…様々な分野に多大なダメージを与えている。悲惨なことが次々起こっている。「出口が見えない」「先行きが見えない」等々の言葉が頻りに使われている。

世界銀行とWHOからの専門委員会は昨年、世界的な保健の緊急事態が起こった場合、世界経済が危機に陥るだろうとの結論を出していた。1918年から

1920年の間に5000万人もの死者を出したスペイン風邪パンデミックのように、今日の世界経済を約3兆ドル(2.7兆ユーロ)も落ち込ませるだろうと、専門家からは算出している。比較的軽度の伝染病であっても、GDPの2パーセント以上もの損失を出し得る、と述べている。「世界は、伝染力の強い呼吸器関連の病原体に対して無防備である」と報告している。

中国の習近平国家主席は、ウィルスを「悪魔」にたとえて、ウィルスそのものよりも急速に広まる感情、すなわち恐怖心をあおっている。マレーシア、韓国、シンガポールでは、中国人の入国禁止を求める請願書に幾千万もの人々が署名している。フランスではアジア系の人々が、「私はウィルスではない」とのハッシュタグの下、ツイッターで差別に対する苦情を訴えている。アジア人の店員がいるスーパーでの買い物拒否する人たちも出てきている。

コロナウィルスをめぐるこの件は、医学と中国の問題だけにとどまらない。これは増加する相互依存、すなわち今日の世界の政治的、経済的また社会的相互依存についての教訓を含んでいる。それはまさに、グローバル化の危険を物語っているのである。

しかし、ほとんどすべての疫学者が予測するように、ウィルスがこのまま何週間も何か月も拡散し続けるならば、損害も急速かつ甚大なものになるだろう。特に、中国と取引のある企業の被る損害は、想像を絶するかもしれない。米国に本社のあるアップル社は、コンピュータとスマートフォンの部品工場を、今回のパンデミックの爆心地である武漢に持っている。アメリカのコーヒーチェーンであるスターバックスは、中国に4100店舗を構えているが、その半数は現在閉店している。

多くの企業が従業員の旅行を禁止していて、航空会社やホテルの損失は日々深刻になっている。多くの企業は中国と密接な関わりがあり、生産が少々滞っただけで、収益に多大な影響がある。供給の深刻な遅延は、ディスカウントチェーン店やネット販売、薬品やその他の医療の供給に影響するであろう。

すべての始まりである武漢においては、感染者と死者の数は日に日に増える一方である。ウィルスの拡大はそこで止まるのか、それとも今後国から国へ、大陸から大陸へと広まり続けるのか、全世界がかたずを呑んで見守っている。

世界中の研究者たちが躍起になって、ワクチンの開

発に取り組んでいる。ある研究所は、遺伝コードが分かって3時間以内にワクチンを開発したと主張している。しかし現実には、少なくとも3か月はかかるであろう。条約議定書があるゆえに、いかなるワクチンであれ、試験的に人間に使用できるようになるにはそれだけの時間を要するのである。いったんワクチンが承認されたとしても、生産を増やして世界中に分配するのにさらなる時間がかかることだろう。

コロナウィルスに有効であることが証明されたワクチンは、まだ現れていない。もしこのまま拡大が続いて収拾がつかなくなると、世界は自衛手段を持たなくなり、今よりもはるかに多い感染者と死者が出ることだろう。

科学者や医者たちが何と戦っているのかもよくわかっていない点で、さらなる不安を掻き立てている。この新しい病原体がどれほど感染力が強く、どれほど致命的であるかも未だ不明瞭である。マルブルグ大学のウィルス学者であるベッカー氏は、「現時点で、われわれは行き当たりばったりで事に当たっている」と述べている。

人々は、恐怖でおののいている。武漢とその周辺住民の運命を危惧する不安は、全世界に広まりつつある。

## いかにコロナウィルスはグローバル化にとって致命的脅威となったか？

これは極めて大きな問題で、あなたの人生を劇的に変え得るものである。そのように考えたことはあるだろうか？あるいは用心のため、すでに何らかの変革に踏み切ただろうか？すでにマスクを買うのも困難な状況である。都会を出るようにとの預言や勧告は正しかったのかもしれない。

私が強調したいポイントは、ここからである。

今日、キリストが私たちのために服従されたから、私たちは服従しなくてもよいと語る牧師たちの間では、それはあまり受けが良くない。しかしながら、都会を出るようにとの主の勧告は預言的英知によるもので、実に適切であった。私たちを保護し、ご自分の民に危害が及ばないように、主はこのような指示を与えられたのではないだろうか？無論その勧告は、その他

多くの有益な霊的理由も含んでいた。しかしそれでもなお、この勧告は無視しても構わないと説く牧師たちがいる。

昨日も今日も明日も、ずっと同じ日が続くように思われる。その状況に神の民は満足しきっている。不服従のために彼らが滅びるまで災いは続き、悪化の一途をたどるだろう。たとえキリストが彼らのところに來られて、「逃れて助かりなさい。後ろを振り返ってはいけない」と言われたとしても、彼らは躊躇して、勧告に従わないだろう。

神は大都市を滅ぼされると、私たちに語っておられる。「伝道」の27ページにこう書かれている：

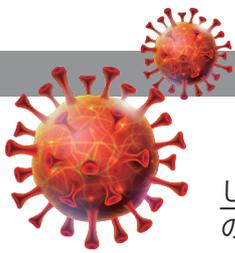
「神は突如としてすべての違反を一掃なさったり、国々を全滅させたりはなさらない。が、人々がサタンの支配に下ってしまっている町や地域を罰されるであろう。国々の諸都市は厳正に扱われるが、それでも頂点に達した神の怒りが注がれるわけではない。なぜなら、それでも幾人かの魂は敵の欺瞞を逃れ、悔い改めて改宗するからである。一方で大多数の者たちは、怒りの日に備えて怒りを蓄えるであろう」。

人々が最もサタンの支配に下っている場所はどこだろうか？都市部である。悪は諸都市に集中している。人々が互いに切磋琢磨して、罪を増し加えるからである。

「大都市〔複数〕が一掃される時は、そう遠くない」  
伝道 29。

一掃される？それは信じがたい。どういう意味だろうか？何百万単位で人々が死ぬということだろうか？諸都市が単に空っぽになるという意味だとは、私は思わない。都市が滅亡するという事だろう。だとすれば、コロナウィルスのような病は最悪の事態には程遠く、まだ序の口程度なのであろう。

武漢をはじめとする中国全土に、神が何かを訴えておられるのだろうか？18世紀と19世紀には、多くのプロテスタント宣教師が中国で福音を伝えた。ところが中国は国を挙げて神に背を向け、キリスト教に強硬に反対している。過去70年にわたり、中国は神に敵対してきた。特に最近、中国はキリスト教の礼拝を厳しく取り締まり、キリスト教徒らにもさまざまな方法で共産党を拜むようにとの要求を強化している。そのような国に、神が警告しておられるのだろうか？



中国に言論の自由や報道の自由は存在しない。今回のコロナ騒ぎのように事態の収拾がつかなくなるといふかぎり、自由を制限するほうが世論をコントロールしやすいのである。英国の新聞デイリーメールはこのことについて記事を掲載し、言論の自由によりもっと早く民衆や医療現場に注意が促されていたら、コロナは終息していたであろうと仮定している。しかし言論の自由は抑えられているためにウィルスがのさばり、今や万人の知る結果を招いてしまった。



ガーディアンの記事を引用する。

「告発者となった中国人医師の死は、中国全土で強烈な感情を引き起こした。ソーシャルメディアは、コロナに関して警報を鳴らそうとしたが、『偽の噂の拡散』と『社会秩序のびん乱』のかどで警察署に連行された殉教者の死を悼むメールであふれている」。

悲嘆はすぐに、言論の自由を求める怒りに変わっていった。「われらに言論の自由を」との見出しは幾千万もの人々を魅了し、最近香港の抗議デモ参加者の間ではやった「民衆の歌声が聞こえるか？」という歌とリンクしていく。

異常な動きの中で、共産党の強力な内政懲罰機関は速やかに、リー医師に関連する疑問を調査するため武漢に調査員を派遣すると発表した。中国当局は、怒りと露骨な感情が容易にエスカレートして暴動になり得ることを十分に分かっている。

中国国民の言論の自由とその他の基本的権利が尊重されない限り、こういった危機は今後何度でも起こるのである。よりグローバル化された世界にあって、その規模はさらに増大するかもしれない。コロナウィルスによる犠牲者の数は、すでに SARS による死者の数をはるかに超えている。

中国における人権は、他の国々にとってほとんど関係ないように見えるかもしれないが、この危機で見ら

れたように、中国が自国民の自由を妨げるときに災いが起こり得る。まさに今こそ、国際社会がこの問題を真剣に受けとめるべき時である。

## もしも中国が言論の自由を重んじていたら、コロナ危機は存在しなかった

しかし、本当の問題は信教の自由である。もしも中国に信教の自由があれば、言論の自由も自動的についてくる。双方はセットであり、姉妹のようなものである。もし中国が一方を認可するとしたら、もう一方も認可しなければならなくなる。そしてこれらの二姉妹は、多くの人の命を救ったことだろう。無論中国政府が、その国民にそれほどの関心を抱くわけがない。政府の主な関心は共産党であって、当局が新型コロナの発生を隠蔽しようとしたことが、それを立証している。

信教の自由は健康にとってプラスであり、自国民に信教の自由を保障する政府は、健康の危機が訪れても問題を最小限にとどめられるとの実例は、いくらでもあげることができる。

神の律法を順守することは、その結果あらゆる祝福をもたらす。中国は神の律法を拒絶し、経済的には栄えていても、それは自国民を大々的にだまして得られた富に過ぎない。中国に真の自由は存在せず、民衆には一定の自由が許されておらず、それが疫病をもたらし、状況を悪化させたのかもしれない。

サタンは、自然界の様々な要素をコントロールしてきた。

「サタンはまた、備えのできていない魂を自分の収穫として取り入れるために、自然力を通して働く。彼は自然の実験室の秘密を研究してきたので、神が許される範囲内で自然を支配するため全力を用いる。彼がヨブを試みることを許されたとき、どんなに速やかに、家畜の群れやしもべたちや家や子供たちが取り去られ、またたく間に事件があいついで起こったことだろう・・・」大争闘下 351 - 352。

ヨブは、終末のプロトタイプ（基本型）である。彼の神への信頼は、損失と苦痛という境遇にあっても際

立っていた。しかし神は、ずっと彼とともにおられた。サタンが神に訴えるまで、神が彼を保護しておられた。神はサタンの挑戦を受けられたが、ヨブの心をご存じであった。終末の神の民に対しても同様である。彼らは神に忠誠をつくり、キリストとひとつになっているので、極度の圧力下にあっても彼らの忠誠を疑われない。論点はヨブの時代と同じである。

「被造物を保護し、破壊者の力から守られるのは神である。しかし、キリスト教界が主の律法をないがしろにしてきたため、主は、なすと仰せになったことをそのとおりになさるであろう。すなわち、主は地上から祝福を取り去り、神の律法に反逆している者たち、また人にそうするように教えたり強制したりしている者たちから、保護のみ手を取り除かれるであろう。サタンは、神が特に保護されないすべての者に対する支配力を持っている。彼は、自分のたくらみを押し進めるために、ある者たちに恩恵と繁栄を与える。そして、他の者たちには災いをもたらして、人々に、彼らを悩ませているのは神だと信じさせようとする」大争闘下 352。

「サタンは、神が特に保護されないすべての者に対する支配力を持っている」という文に着目されたい。それはつまり、サタンの攻撃に対して無防備な、地球上のすべての人を指す。

「サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のようにみせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口の多い都市が破滅して荒廃する」大争闘下 352。

コロナウィルスは、れっきとした病気ではないだろうか？

諸都市は病気や犯罪、戦争や腐敗の爆心地となる。もしあなたが都会に住んでいるとして、尚もあの手この手で都市生活を正当化するだろうか？何らかの世界的な利点を期待して、尚もそこにとどまるだろうか？

「彼は今も活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹、あらし、洪水、つつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべきウイルスで汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ」大争闘下 352。

コロナウィルスは、空気中に漂う恐るべきウイルスではないだろうか？

「これらのできごとはますますひんぱんになり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ」大争闘下 352。

私たちは、まだまだ最悪の状況を見てはいない。もっと強力な悪疫がやってくることだろう。もしあなたが都会に住んでいるとしたら、他の牧師たちが何と言おうと、あなたの身は安全ではない

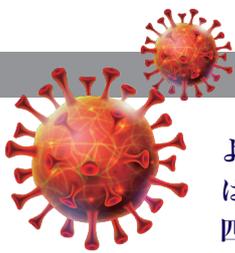
現代の状況について述べている、別の引用文を紹介しよう。レビューアンドヘラルド、1904年4月14日号の記事である。

「騒然とした時代が我々の前途にある。神の裁きは、地のあちこちに臨んでいる。大災害が、急速に次から次へと起こっている。間もなく神が、地を激しく震わせ、住民らをその罪のために罰するために立ち上がるであろう。それから神はご自分の民のために立ち上がり、彼らを保護なさるであろう。あらゆる危害が彼らに及ぶのを防ぐため、永遠のみ腕を彼らにまわされるであろう」。

1月1日以来次から次へと起こっている大災害を思い起こしていただきたい。オーストラリアは、かつてないほどの森林火災に見舞われている。アフリカでは、イナゴの大群が作物を食い尽くしている。現在、コロナの疫病が中国を襲っている。これらの災害は、急速に次から次へと起こった。引用文にある通りではないだろうか？

ここで疑問が起こってくる。もしも神の民が神に従わず、与えられた光に従って生活していないならば、神はどうやってご自分の民を保護することがおできになるだろうか？あなたは今でも映画を楽しんでいるだろうか？今でも夫は妻に、妻は夫に腹を立て、思いやりのない言葉を口から出しているだろうか？鶏や魚や赤肉やグルメリ料理といった、終末に神が禁じられた食べ物を、今でも口に入れているだろうか？乳製品や卵など、神が注意を促された食べ物を、今でも口に入れているだろうか？過剰な砂糖の入った甘い菓子類はどうだろうか？今でもチョコレートをやめられない人がいるだろうか？今こそあなたの免疫系を、万里の長城のように堅固なものとする必要がある。

「罪惡に満ちた世界に裁きが望み、恐るべき場面が展開されるとき、神の民の隠れ家はどこにあるのだろうか？怒りが過ぎ去るまで、彼らはどの



ように保護されるのだろうか？ヨハネは、地震や嵐や政治紛争などの風が、四人の天使によって抑えられているのを見た。神が解き放つように命じられるまで、これらの風は抑制されている。そこに、神の教会の安全がある。天使たちが神の命令に従って地の風を抑えているので、神のしもべらが額に印されるまでは、風が地や海や木々に吹きつけることはない。力強い天使が、東の〔日の出る〕ほうから上ってくるのが見られる。この最強の天使は手に生ける神の印、または唯一命を与えることのできるお方の印をたずさえていて、不死すなわち永遠の生命を受けるべき人たちの額に印を刻むことができる。この働きが成し遂げられ、風を解き放つようにとの合図を送るべき時まで、四人の天使に命じて風を抑えさせる権威を持つのが、この至高天使の声なのである」牧師への証 444。

「将来このような光景が見られ、罪の世界に臨むこのような恐るべき審判が下るとすれば、どこに神の民の避け所があるのでしょうか。災害が過ぎ去るまで彼らはどのように守られるのでしょうか。ヨハネは、自然の要素——地震、暴風、そして政治上の闘争——が4人の天使によって押さえられているのを見ます。これらの風は神が解放を命じられるまで制御されています。神の教会には安全があります。神のみ使いたちは神の命令に従い、神の僕たちの額に刻印が押されるまでは、風が大地にも海にも、どんな木にも吹きつかないように、地に吹く風をしっかり押さえています。最も力強い天使が東から（太陽の出る方角から）上ってくるのが見えます。この大いなる天使は生ける神、すなわち、この方のみが命を与えることのできる神の刻印を手を持っています。この天使は、永遠の命が与えられる人の額に刻印を押すことができます。刻印を押すこの働きが完了し、押さえている手を離してよいと言われるまで、四方の風を押さえるように4人の天使に命じる権威をもっていったのは、この最高位の天使の声です」聖霊に導かれて下 225。

あなたは印されているだろうか？すべての既知の罪に勝利しているだろうか？最終時代に真昼の光が神の民を照らすとき、これが天国を受け継ぐ者たちの経験となる。この経験に入る人たちは、神の保護を得るであろう。次の聖句が彼らの経験となる：

「たとい千人はあなたのかたわらに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災はあなたに近づくことはない。あなたはただ、その目をもって見、悪しき者の報いを見るだけである。あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道で、あなたを守らせられるからである」詩篇 91：7－11。

生命を脅かす疫病も、あなたに近づくことはない。「あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。また暗やみに歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない」詩篇 91：5－6。

この聖句を読んで、勇気づけられない人がいるだろうか？これは、全知全能の神のお約束である。だから、いと高きお方の隠れ家に住むことが最善なのである。

「いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は主に言うであろう、『わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神』と。主はあなたをかりゆうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である」詩篇 91：1－4。

神があなたのために戦ってくださる。あなたはただ神に忠誠を尽くすだけでよい。すなわち、神を愛するがゆえに、すべての戒めを守ることである。魂の敵には、ただの1ミリも譲歩してはいけない。そうすれば、次のようなことが起こるのである。「世の人々は、彼らが嘲笑、愚弄し、撲滅しようとしたその当人たちが、疫病、嵐、地震にも耐えてなんの害も受けないのを見る。神の律法を犯す者には焼き尽くす火であられるかたが、神の民にとっては安全な隠れ場なのである」大争闘下 437。

あなたは、いと高きお方の隠れ家が何かご存じだろうか？「それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上になわたしを高く置かれるからである」（詩篇 27：5）。秘密の隠れ場とは、幕屋のことである。それはすなわち、イエスのご品性の写しである十戒の石板が納められている、至聖所のことである。イエスのご品性を我がものとするときのみ、彼はあなたをご自身の幕屋のうちに隠し、あらゆる災いからあなたを保護なさるの

である。

「間もなく、**神の対応のしかた〈処置〉に突然変化があるであろう**。墮落しきった世界は、洪水、嵐、火災、地震、戦争、流血沙汰などの、様々な惨事に見舞われる。主は怒ること遅く、大いなる力を持ったお方であるが、決して悪人を大目に見ることはなさない。『主は怒ることおそく、力強き者、主は罰すべき者を決してゆるされない者、主の道はつむじ風と大風の中にあり、雲はその足のちりである』（ナホム1：3）。ああ、人々が神の忍耐と辛抱を理解するように！主はご自身の属性の一部を抑制しておられる。その全能の力は、無限の力の支配下にある。世の墮落に対してしびれを切らすことを神は拒否なさり、最も値しない者にさえも、未だゆるしの望みを抱いておられるということを、人々が理解するように！けれども、神の寛容がいつまでも続くわけではない。罪人らに対する神の扱いが突如として変わる時に、誰が備えているだろうか？違反者らに確実に臨む刑罰を逃れる準備を、誰がしているだろうか？」クリスチャン教育の基礎 356。

ゆえに物事は、これまでのようにはいかなくなる。これから徐々に、激しさと厳しさが増していくわけでもない。敵が破壊の働きを増大するのを、神がお許しになるということである。ノアの時代に、神は突然悪人に対する扱いを変えられた。ただし、突如変化がやってきたのは、憐れみの扉が閉ざされ、誰もそれを開けることができなくなった時のことであった。地上歴史の最終時代も同様である。さらなる疫病が人々に臨むとき、彼らは驚愕することだろう。

「至上権を持っておられる神が、墮落した世界に対する扱いを急激に予期しない方法で変更されたとしても驚くに当たるであろうか。罪悪と犯罪の増加に対して刑罰が下ったとしても、驚くに当たるであろうか。欺瞞と詐欺によって得た不正な利益を得た者に対して、神が滅亡と死をもたらされたからといって、驚くに当たるであろうか。神の要求しておられることについて、ますます明るい光が、彼らの道を照らしたにもかかわらず、多くの者は、主の支配権を認めず、天の統治に対するあらゆる反逆の創始者の黒い旗のもとにとどまることを選んだのである」国と指導者上 243。

今こそ、終わりに備えるべき時である。あなたが思っているよりもその時は近い。

「世の中の状態が絶望的になって、『主はこう言われる』に従順を誓う真の宗教が絶滅寸前にまで追いやられる時期が、我々の前途にある。神が激しい怒りをもって犯罪者らを速やかに罰せられないからといって、悪行は忘れ去られることも見過ごされることもないことを、青年たちは教えられるべきである。神は諸国の記録をとっておられる。この世界歴史の全世紀を通じて、悪を行う者たちは怒りの日に受けるべき怒りを積み立ててきた。時が満ちて、罪の升目が神の憐れみの上限に達したとき、主の忍耐はやむであろう。天の記録書において、積もり積もった罪の総計が上限に達するとき、憐れみの混ざらない怒りが臨み、神の忍耐を使い果たすことがどれほど恐ろしいことかが、その時明らかになるであろう。国々が結束して神の律法を無効にするとき、この危機は最高潮に達するであろう」教会への証5巻、523。

私たちは最終時代の場面が展開する只中に生きている。危機の時はずでにきている。火災や地震や疫病、またむさぼり食う者を通して、神は私たちに訴えておられる。主の警告に耳を傾けてはどうだろうか？もしもあなたが主の保護下にいないとしたら、この疫病に感染しなかったとしても、次の災いに巻き込まれることだろう。今こそ神に心を捧げよう！

# 合衆国憲法修正第一条で保障された権利は、現コロナウィルス危機の間は不可欠でないのか？

アンディ・ローイ 翻訳：砂川満

※ 今、新型コロナウイルスのパンデミックは、いろいろな教訓を我々に教えている。政府は、国民の命と安全を守るという大義名分のもと、いろいろな制限が模索されている。「要請」ではどうにもならないことで、人間の基本的な人権、信仰の自由を制限する法的権限を行使する傾向にある。やがて、新型コロナウイルスだけでなく、想定外の様々なことが起こってくるのが聖書に預言されている。やがて各国で憲法が改正され、「新世界秩序」が構築される。すると法と秩序に従うように強要されるとき、基本的人権、信仰の自由は無効とされることになる。

記事参照元：<http://adventmessenger.org/our-first-amendment-rights-are-not-essential-during-the-current-coronavirus-crisis/>

一般的に隔離や閉鎖は、時には必要かつ適切であるとされている。しかし、憲法修正第一条の権利を行使している人々を逮捕するのは、明らかな越権行為であろう。もしも政治家らが、単にそれらを不要と宣言することにより、単独で我々の基本的自由を廃止できるとしたら、我々はもはや憲法上の権利を持たないことになる。基本的人権はたちまちただの象徴と化し、もはや保障されなくなる。自由は形骸化してしまうことになる。

たとえ州知事らが、様々な抗議や、教会へ行って礼拝堂で社会的な距離を保つことは無意味だと宣言しても、それは関係ない。なぜならそれは個人の意見に過ぎないから。政治家または官僚あるいは知事の意見ですら、ただの一個人の意見としてもはや重きをなさない。我々は意見に基づいて統治すべきではなく、憲法に基づいて統治すべきである。

州知事は、合衆国憲法を擁護するとの公的宣誓を行っている。警察官も、憲法の保障する市民の権利を守る誓約をしている。ところが多くの知事や警官らが、COVID-19の危機の間、憲法は無効であると事実上宣言しているのである。

州知事らは絶対的権力を行使して、市民にとって何が有効か無効かを決定している。ある知事たちは単独で、市民がスーパーや酒屋で買い物をするのを許可する一方で、教会へ行くことや抗議集会を行うことを禁止している。これはまさに、わが国(アメリカ合衆国)がよりどころとしている原則の否定に他ならない。そもそも、我々に権利を与えているのは州知事ではないのだから、彼らが我々の自由を奪うことなどできないのである。では、我々の権利はどこから来ているのか？

「すべての人は平等に造られており、特定の奪うことのできない権利を創造主から賦与されている。またそれらの中に、生きる権利と自由権と幸福を追求する権利が含まれていて、これらの真理は自明である」第二憲法会議における独立宣言、ペンシルベニア州フィラデルフィア、1776年。

特定の奪うことのできない権利を我々に与えておられるのは神だけであることを、建国の父祖たちは認めていた。政府は人民にいかなる権利も与えない。神が我々に与えられた権利を保護するのが、彼らの義務である。基本的人権を有する目的は、政府が特定の自由を奪う権力を限定するためである。我々には、常に不可欠で常に保護されねばならない自由がある。

「宗教の制定または宗教の自由な行使の禁止または

言論あるいは報道の自由のはく奪、または平和的に集会を開く自由のはく奪、また苦情の除去を政府に要請することなどに関して、議会が法律を作成することはない」米国憲法修正第一条。

これは集合的に「基本的人権」と呼ばれる十条中の第一条である。これらは合衆国憲法に記されている。第一条は、信教の自由、表現の自由、集会の自由、また苦情あるいは抗議を提起する権利を保障している。残念ながら、ある州知事らは、自動車で教会に通うこと、また定期的な礼拝に代わる安全な代替方法を禁じることにより、このコロナウィルス危機につけ込んでいる。かつてないほどの権力をふるい、憲法第一条の保護を否定することによって、彼らはわが国を襲っている恐怖やヒステリーにつけ込んでいるのである。これを支持することはできないし、支持してはならない。

政府に「基本的人権」を不要と宣言する権威はない。ある州においてはなぜ、教会を閉鎖しておきながら、妊娠中絶クリニックの経営が許されているのか？これは権力の乱用、重大な越権行為であり、速やかな法的措置と司法介入が求められる。合衆国裁判所はそのために設けられているのである。すなわち、国民を奴隷や臣下にしようとするインチキなよごれた知事らを阻止するために。

ご自宅で聖書研究ができます

毎週の説教動画、セミナー等更新中。  
無料書籍も閲覧可能です。  
ぜひご活用ください！

サンライズミニストリー

検索



ウェブサイト

[www.sunriseministry.com](http://www.sunriseministry.com)

YouTube

Sunrise Ministry | Youtube Channel

[https://www.youtube.com/channel/UC\\_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA](https://www.youtube.com/channel/UC_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA)



YouTube チャンネル

# 地球の歴史 6 千年 ?!

「人の子が戸口まで近づいている」

金城 重博

※ この記事は、断定的ではありません。一つの研究として読んでいただきたいと思います。一人ひとり聖書と証の書によって各自の聖霊による確信を持てるまで研究する価値のあるテーマだと思います。

地上歴史6千年が2027年で終わる?!という預言研究が浮上してきた。衝撃的な(びっくりさせる)研究だ。キリストの再臨があと7年で来るのか。「再臨の日時」を設定するのではないが、キリストの再臨は非常に近いというメッセージである。その根拠はどこにあるのだろうか。またまたオオカミ少年の登場か。私は懸念(不安と心配)のうちに数年、研究し続けている。再臨運動の先駆者、ダニエル-黙示録の研究で有名なユライヤ・スミスの妹アンニー・スミスの歌が、私も大好きになった。

「見張りよ我が家は、はるかに遠きか

けわしき旅路に 疲れ果てぬ

涙をぬぐいて ひたすら主を待て

悩みは消えゆき 朝は来る」

3節に「終わりのしるしは この世にあふれる」と歌っている。約170年後の今日、その当時と比べてどれほど「終わりのしるし」は増えているだろうか。ひしひしと世の終わりが近いと感じさせられるこの頃である。初期の再臨信徒のあの情熱はどこに見られるだろうか。再臨切迫感はどこにみられるだろうか。

中学3年生の時にダニエル2章の預言、その他の預言から世の終わり、再臨のメッセージに心躍り、進路を変え、三育学院に入学した。しばらくして甥も学院に招いた。甥は事情があって学院をやめて世の仕事に

オオカミ少年とは：羊飼いの少年が、退屈しのぎに「狼が来た!」と嘘をついて騒ぎを起こす。だまされた大人たちは武器を持って出てくるが、徒労に終わる。少年が繰り返し同じ嘘をついたので、本当に狼が現れた時には大人たちは信用せず、誰も助けに来なかった。そして村の羊は全て狼に食べられてしまった。

移っていった。我々家族がロスアンジェルスにいたとき、私を頼ってアメリカにきた。フランス料理の技術があったのでやがて成功した。しかし、彼に「叔父さんは昔から世の終わり、再臨は近いと言っていたよね。人間の知恵、技術の発展を考えるとそんなことは考えられないよ」という言葉を投げかけられることがあった。私は内心、再臨が近いことに半端な確信は持っていたものの、確かに日曜休業令は来ないし、「再臨の近い」ことを先駆者たちの情熱と確信をもって答えることができなかった。彼を納得させられなかった淋しさをずっと持ち続けてきた。再臨近しと説教していた先生方が次々眠りにつき、再臨信徒の葬儀が絶えないのを見るとほんとに寂しかった。

しかし、この度の地上歴史6千年、ダニエル書12章の預言期間の研究、そして新型コロナウイルスのパンデミックが「わずかに残る火」を燃え上がらせてくれた。一般社会にも異常を感じさせられる出来事、現象が現れるこの時にラオデキア教会内の、預言研究に没頭している人たちに刺激されて、自分も研究しているうちに「心が内に燃え」てくる経験をしているこの頃である。

ウィリアム・ミラーは、ダニエル8:14「2300年」の研究から2年後「確信を抱いた」。5年間が経過し、さらなる確信を抱いた。9年間待った。ついに1831年に自分の信仰を表明。1833年に説教の許可証を受ける(大争闘下17、19、21)。そしてあの大再臨運動

が全米に起こった。今日、新しい光、ダニエル 12 章の三つの預言期間、地上歴史 6 千年説について、そのような研究者が現れているのである。自分もその解き明かしに触れて心ワクワクしているところである。まだ研究中であるが、少しでも皆様と分かちあえたらと思って、この記事を書いているところである。

今、教会でキリストの差し迫った再臨についての説教が聞かれない、日曜休業令の切迫についても聞かれないという声がよくある。この教会、セブンスデー・アドベンチスト教会は、時に関する預言の研究から生まれたのではなかっただろうか。

古代イスラエルの流行語は何だっただろうか。エゼキエル曰く：

「人の子よ、イスラエルの地について、あなたがたが『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざはなんであるか。

英語の「proverb」（ことわざ）は、非難、軽蔑、物笑いの的の意味がある。エルサレムの人々は、神の警告をあざ笑っていた。時はどんどん過ぎて、神の預言は成就しないじゃないか、今に至っては信頼できるものかとあざけたのである。

時の遅延に疲れ果てたのだろう。預言者に与えられた幻一証の書はむなしくなった。終わりの時代の霊的イスラエルも、ラオデキア状態に陥り、時が延びるにつれ、古代イスラエルとまったく同じようなことわざが今日の教会のことわざとなっていないだろうか。しかし、神は次のようにエゼキエルに命じられた：

「それゆえ、彼らに言え、『主なる神はこう言われる、わたしはこのことわざをやめさせ、彼らが再びイスラエルで、これをことわざとしないようにする』と。しかし、あなたは彼らに言え、『日とすべての幻の実現とは近づいた』と」エゼキエル 12:22、23。

終わりの時代に同じことが、キリストの再臨信徒に起こるとペテロは言う：

「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、『主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変わっていない』と言うであろう」2 ペテロ 3: 3、4。

マタイ 24:48 でキリストは、再臨の前兆として教会

内に再臨は遅いと思う人々が現れることについて次のように言われた：「もしそれが悪い僕であって、自分の主人は帰りがおそいと心の中で思い」と。

終わりの時の接近のしるしとして、①キリストの再臨切迫の説教をする牧者がいない。②再臨は近いと言っても心の中ではそうは思わない。③かえってあざ笑う人たちが出てくる等々の種類の人々が現れると言われている。

エレン・G. ホワイトは、次のようにコメントしている：

「悪いしもべは心の中で『主人の帰りはおそい』と言う。彼はキリストが来られないとは言わない。彼はキリストの再臨という考えを嘲笑はしない。しかし自分の心の中でまた態度や言葉で、彼は主の来臨は遅れると宣言するのである。彼は他の者のところから、主がすぐに来られるという信念を追い払うのである。彼の影響が人々に無遠慮で不注意な遅れを生じさせている。人々は世俗的な麻痺状態を強めてしまう。世俗的なことに対する情熱や墮落した考えが思いを占める。…人々は主の来臨をはるか遠くに押しやっている」マラナタ 5月16日。

現実の今日の世界を直視しよう。確かにこの世は、おかしくなっている、世は終末ではないかと感じている人々が少なくはない。不吉な陰謀論も出回っている。

2千年前に、イエス・キリストがこの地上に来られた時、神の民のごく少数しかメシアを待望していなかった：

「このベツレヘムの驚くべき物語は、なんという教訓を教えていることであろう。それはなんとわれわれの不信、高慢、うぬぼれを譴責することであろう。それは、われわれもまた、恐るべき無関心に陥って、時のしるしを見分けることができず、そのために神のおとずれの日を知らずに過ごすことがないように、注意するようにとわれわれに警告を与えている」大争闘上 404。

ユダヤ人は、神のみことばの解釈とその適用とを誤り、彼らはおとずれの時がわからなかった。

イエスの初臨について、1 希望 288-289 には次のように書いている：

「キリストの来臨、キリストが聖霊によってあぶらをそそがれること、キリストの死、異邦人に福音が伝えられることなどについて、その時期



がはっきり示されていた。こうした預言をさとり、それがイエスの使命の中に成就されているのをみとめることは、ユダヤ民族の特権であった。キリストは弟子たちに、預言の研究が重要であることを強調された」。

「彼らは、キリストご自身から、『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ』との使命を帯びてつかわされた（マルコ 1:15）。この使命は、ダニエル書 9 章の預言に基づいていた。『メシヤなるひとりの君』が来るまで、69 週あると天使は言った。そこで、弟子たちは、大きな希望と喜ばしい期待をもって、全世界を支配するメシヤの王国がエルサレムに建設されるのを待望した…

キリストは、預言されたとおりの時に、預言されたとおりの様子で、おいでになったのであった。聖書の証言は、彼の伝道の細かい点まで成就した。彼は、救いの使命をお伝えになった」大争闘下 38。

イエスの十字架については大争闘下 359-360 頁に次のように書いている：

「イエスの死は、まるで主がなんの予告もしておられなかったかのように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、

はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているの、彼らは悩みの時に備えができていない」。

何という警告であろう！初臨の時に神の民にはっきり示されていた預言に「恐るべき無関心」がみなぎっていたように、今も多くの神の民がはっきり示されている最後の預言に無関心であるという。この言葉は、セブンスデー・アドベンチストに言われていることである。「われわれにも」というの現代の神の民のことを言っているのではないだろうか。初臨の時にまず、彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった」（ヨハネ 1:11）。

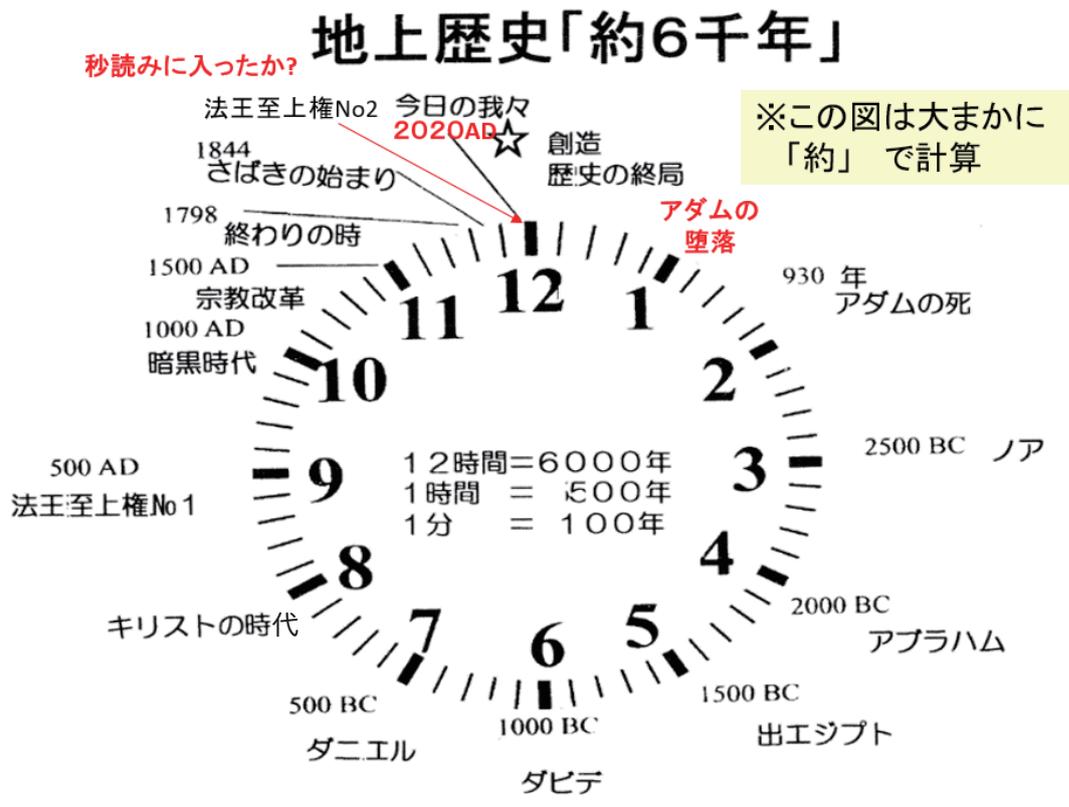
ユダヤ人の中で、メシヤの出現の 때가近いことを知っているのはごくわずかであった。神はあえて東の博士たちをも導いておられた。祭司のザカリヤには、彼が祭壇の前で奉仕していた時、キリストの来臨が間近に迫っていることが知らされていた（1 希望 31）。シメオンも女預言者アンナも預言を研究していた（1 希望 43）。

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」「隠れた事はわれわれの神、主に属する」が、「表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属」するのである（アモス書 3:7、申命記 29:29）。神はこれらのことをわれわれにお与えになっており、神の祝福は、預言の書を祈りのうちに、敬虔な思いで研究する者に伴うのである（1 希望 288）。

## 「時という大時計」世俗と聖書の預言



# 神の大時計



神は「時という大時計」を持っておられる (1 希望 22)。

上の図は、マリアン・ベリー氏のもので、少し追加した。

再臨運動の先駆者ウイリアム・ミラーは、聖書で最も長い預言期間— 2300 年の解き明かしのきっかけになったことについて次のように書いている：

「ミラーは、次のように言っている。『もう1つ真にわたしの心に感動を与えた証拠は、聖書の年代であった。…過去において成就した預言のできごとは、しばしば定められた期間内に成就したということをして、わたしは見いだした。洪水までには、120年 (創世記 6:3)。洪水に先だつ7日間、そして、預言された雨が40日間 (同 7:4)。アブラハムの子孫の400年の寄留 (同 15:13)。給仕役の長と料理役の長の夢のなかの3日 (同 40:12 - 20)。パロの夢の7年 (同 41:28 - 54)。荒野の40年 (民数記 14:43)、3年半のききん (列王紀上 17:1)(ルカ 4:25 参照)、…70年の捕囚 (エレミヤ 25:11)、ネブカデネザルの7つの時 (ダニエル 4:13-16)、ユダヤ人のために定められた7週と62週と1週から成る70週 (同 9:24 -

27)。一時に区切られたできごとは、みな、かつては預言に過ぎなかったが、その預言どおりに成就したのである』大争闘下 9。

イスラエルのエジプト滞在期間 430年の終り、「ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た」とある (出エジプト 12:41、51)。

「バビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果し、あなたがたをこの所に導き帰る」エレミヤ 29:10。

「われダニエルは主が預言者エレミヤに臨んで告げられたその言葉により、エルサレムの荒廃の終るまでに経ねばならぬ年の数は七十年であることを、文書によって悟った」(ダニエル 9:2)。欽定訳では、「Daniel understood by books the number of the years, whereof the word of the LORD came to Jeremiah the prophet, that he would accomplish seventy years in the desolations of Jerusalem」。"accomplish"の言語には「満ちる」の意味もあるようである。ネブカデネザル王のエルサ



レム (ダニエル 1:1,2) 包圍 - 605B.C からクロス王のユダヤ人捕囚解放の時 - 536B.C. まで、ちょうど **70 年間**であった。

キリストの初臨の時についてこう記されている：

「天の会議では、キリスト来臨の時が決定されていた。時という大時計がその時間をさし示すと、イエスはベツレヘムにお生まれになった」1 希望 22。「時の満ちるに及んで、神はみ子を……おつかわしになった」ガラテヤ 4:4。

「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」マル 1:15。イエスの生涯も「わたしの時はまだ来ていない」「わたしの時は近づいた」「わたしの時はまだ満ちていない」「父よ、時がきました」と時に従っていた。

## 時代に応じて与えられる光

キリストの再臨を待ち望んでいる神の民に、今、その時が非常に近づいていることについて声を上げている人々がいる。

最後の後の雨 / 大いなる叫び (黙示録 18:1-4) - 最後の大運動が始まる前にも、神は必ず時に応じた新しい光をお与えになるはずである。主の僕は次のように言っている：

「救いの働きを前進させる大運動において、神が聖霊を送って地上にいるご自分のしもべたちを特に指導されるということほど、聖書の中で明白に教えられている真理はほかにない。…その時代の必要に応じた光が与えられる」大争闘下 35。

各時代、神の大運動が起こる時には、ご自分の選んだしもべたちを通して、その時代に必要な光が与えられる。これほど明白に教えられている真理はほかにないというのである。

## キリストの再臨が非常に切迫している警告 !!!

1. 神の教会の深い背教の中に、終わりの時に関する新しい光 - 預言の研究が浮上してきた。

それは何かというと、①ダニエル書、黙示録の新たな考察が預言研究者たちによって提示されてきたことである。特にダニエル 12 章の預言期間

の研究である。アンカーで何回か取り上げてきた。しかし、わが教会で覚醒される人は多くはない。② それに、地上歴史 6000 年説の研究である。これらの時に関する研究は、決してキリストの再臨の時を設定するのではなく、繰り返すが非常に近いことを示しているのである。

「しかしキリストは、来臨の日時をお示しにならなかった。主ご自身も再臨の日時を知らせることができないとはっきり弟子たちに言われた。もしこのことを自由に示すことがおできになったら、たえず期待して待つ態度を持ちつづけるように弟子たちに勧める必要はなかったであろう。主の来臨の日時を知っていると主張する人たちがいる。彼らは熱心に将来を描く。しかし主は彼らにそうした立場をとらないようにと警告された。人の子がふたたびおいでになる正確な日時は神の奥義である」3 希望 100。

「正確な日時」「日と時」は、神ご自身が発表なさるまで誰も知らない。

2. 敵の陣地でも動き始めている。というより以前から動いてきたが、それは、「徐々に、こっそり



と静かに…目につかないほど少しづつ」(大争闘上 43、44)、動いてきた。気づいていた人たちは本にして警告してきた。しかし、今や、敵は大胆になりつつある。全世界の指導者たちは、獣 - ローマ法王教とそのアジェンダ (議題、予定、計画) を歓迎しつつある。ヨハネ・パウロ二世、ベネディクト 16 世、そして初のイエズス会士のフランシスコ教皇の動きを見て、その危機に気づかないセブンスデー・アドベンチストの姿。

少しばかり注目すべき時のしるしを見てみよう。

## 三者の結合

2015 年に、フランシスコ教皇がプロテスタントアメリカの国会の大歓迎を受けたあの出来事は、神の民にとって何を意味するだろうか？ 神の預言者、エレン .G. ホワイトは何と言っているか。

「新教教会 (プロテスタント教会) が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権力の手を取り、奈落の向こうにある心霊術と握手しようと手を伸ばす時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和国政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りと惑わしの普及に道を備えるその時こそ、我々は、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」5T 451、最終時代の諸事件 42。

プロテスタント教会、ローマ法王教、心霊術の三者結合を、我々は見ている。エキュメニカル運動の盛んなこと。そして宗教大連合。ローマ・カトリック教会は「キリストなしのキリスト教会」「サタンが生んだ一大傑作」ということを知っているのはセブンスデー・アドベンチスト教会のはず。エレン .G. ホワイトは、心霊術は「キリスト教の装いをとっている」と明言していることがペンテコステ、聖霊運動の指導者ケネス・コーブランドの大集会で見たのではないか。1999 年に、ルーテル世界連盟とカトリック教会は「義認の教理に関する共同宣言」をしたこと、2017 年 10 月 31 日に両教会の 500 周年記念後行われたことに我々は何を見たのであろうか (アンカー 60 号を見ていただきたい)。

それでも眠りこけるラオデキア。…

間もなく、米国が憲法の原則をことごとく放棄する出来事が起こる。その時こそ、「サタンの驚くべき働きがやってきたこと」「世の終わりの近いこと」を知ると主の僕は言われた。

## サタンがキリストを装って現れる !!

それに続いてサタンが「欺瞞の一大ドラマを飾る一幕として、サタンがキリストを装う」。「人々は龍を拝み、獣を拝む」(黙示録 13:3,4)。すなわち、ローマ法王教とサタン礼拝である !!!

最終時代の諸事件の 11 章には、サタンが様々な欺瞞をもって人々を惑わすということがまとめられている。

19MR282 を見ると、サタンがいつ全地の主として光の天使を装って現れるかが書かれている。

「最後の時代に、サタンは光の天使として、大いなる力と天来の栄光をもって現れ、全地の主とし

て主張するであろう。彼は安息日を第 7 日から第 1 日に変更したと宣言するであろう。第 1 日の主として彼に忠誠を尽くすこととして偽りの安息日を提示するであろう。その時 (それから)、黙示録の預言は最終的に成就するであろう (黙示録 13:4-18) を引用」。

これによると、サタンが光の天使として自分自身を世に現すのは、日曜遵守強要令の前のように思える。

(注：伝統的に、我々 SDA は黙示録 13 章の 42 か月を過去の中世時代に適用してきたが、エレン .G. ホワイトは、上記の引用文によると最終的な成就是未来としている)。

大争闘下 398-399 の驚くべきサタンのパフォーマンスに注意していただきたい：

「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる (黙示録 1:13-15 参照)。彼をとりまいてこのまで人間の目が見たどんなものも及ばない『キリストがこられた、キリストがこられた』という勝利の叫びが、空中に鳴り響く。人々が彼をあがめてその前にひれ伏すと、彼は両手をあげて、キリストが地上におられた時に弟子たちを祝福されたように、彼らに祝福を宣言する。彼の声は柔らかく穏やかで、しかも美しい調べに満ちている。やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる。彼は人々の中の病人をいやし、それから (then)、キリストらしくみせかけながら、安息日を日曜日に変えたことを主張し、すべての人に対して、自分が祝福した日を聖とするようにと命じる。彼は、あくまでも第七日をきよく守り続ける者は、光と真理とをもって彼らに遣わされたわたしの天使たちの言うことを聞かないで、わたしの名を冒流している者だと宣言する。これは強力な、ほとんど圧倒的な惑わしである。魔術師シモンに欺かれたサマリヤ人のように、多くの人々は、小さい者から大きい者にいたるまで、これらの魔術に心を奪われて、この人こそは『大能と呼ばれる神の力』であると言う (使徒行伝 8:10)。



## 日曜休業令

サタン、自分自身を光の天使、キリストを装う

## 日曜遵守強要令

神の介入  
生ける者の裁き  
罪の除去  
後の雨/神の印  
大いなる叫び

## 恩恵期間の終了

サタンが光の天使として現れ、安息日を変更して偽の安息日をテストとして「命じる」、すなわち、強要すると42か月の迫害が来る。(19MR282)。我々は、42か月の預言を過去の中世時代にしか適用していなかったが、主の僕は未来に適用していることが明らかである。しかも「最終的に成就」と声明している(預言は二重、三重の適用がある)。

「最終時代にサタンは、天の栄光を帯びた光の天使として現れ、全地の主と称するであろう。彼は、安息日は週の第七日から第一日に変えられたと宣言する。そして週の第一日の主として、この偽の安息日を自らへの忠誠の試金石(テスト)とするであろう。その時(then - それから)、黙示録の預言が最終的に成就する。『また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。この獣には、また、大言を吐き汚しごを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた』(黙13:4-5) 19MR282。

「祝福を宣言する。彼の声は柔らかく穏やかで、しかも美しい調べに満ちている。やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる」。フランススコ教皇は、その前触れなのだろうか。彼は、ラテン語でもない、英語でもない、「心の言葉で語っている」と言った。



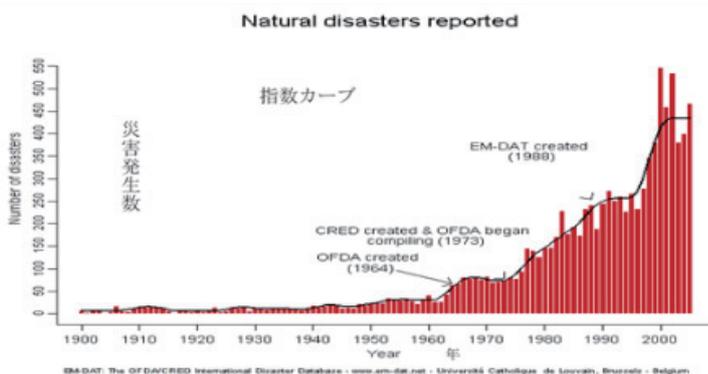
キリストを装って現れ、and then = それから安息日を変えたこと、日曜日を聖とするようにと命じる。その強要令の後に、神が介入される。

「人間の法律が神の律法の上に

高められる時、この世の権力が週の第一日目を守るように人々に無理強いする時、神の働かれるときが来たことを知りなさい」7BC 980、最終時代の諸事件42。

## 気候変動 フランススコ教皇のラウダート・シ

1980年頃から頻度を増してきた災害の指数カーブはアンカーで以前にも載せた。



「温暖化に抵抗する新ムーブメント『絶滅への反逆』が世界で一斉デモ」:

あちこちの国でデモが起こっている。気候変動と教皇の回勅—ラウダート・シと日曜休業令の関係については、アンカー63号に掲載した。これらのアジェンダは、「真の真相を隠し」ながら着々と日曜休業令に進んでいる。ローマ教皇の「世界共通の家」の構築がなされつつある。いかにも良いアジェンダである。

## SDGs 持続可能な目標

## 一国連のアジェンダ—フランススコ教皇のアジェンダ

国連の提唱するよい 17 のアジェンダである。しかし、これもフランシスコ教皇が推進しているものである。…

アドベンチスト・ライフ 2020、6月号、95頁

「セブンスデー・アドベンチスト教会がSDGs(持続可能開発目標)の達成のために、最前線に立つ教会であることを夢見ています」とあった。

「日曜日遵守運動の主張者たちは、自分たちは社会の最高の利益を促進するためにほねおっている。しかし、誤謬を助長する運動が、それ自体は善である働きと結合しているからといって、その誤謬を支持してよいということにはならない。われわれは、健全な食物にまぜることによって毒を隠すことはできても、それが毒であることには変わらないのである。それどころか、毒と気づかれないために、それだけいっそう危険なものとなる。虚偽を、それをもっともらしく見えるようにさせるに足るだけの真理と結合させることが、サタンの策略の一つである。日曜日遵守運動の指導者たちは、人々が必要としている改革を提唱し、聖書と調和している諸原則を提唱するかもしれない。しかし、その中に、神の律法に矛盾する要求が含まれているかぎり、主のしもべたちは彼らと手をつなぐことはできない。彼らが神の戒めを捨てて人間の戒めを置いたことは、どんな理由によっても正当化できないのである。サタンは、靈魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる」大争闘下 349-350。

## 新型コロナウイルスと新世界秩序

Walter Veith の資料より：



● ハンデルスブラット誌(ドイツの主要な経済誌)。EU ヨーロッパ連合は、バベルの塔のごとく、巨大帝国を建設したが、新型コロナウイルスの嵐に襲われる危機の中で「我々はグローバルなリーダーシップが必要だ」と訴えている。

## ● 法王の世界政府の訴え。



Papst beschwört Einheit aller Menschen im Kampf gegen Corona



新型コロナウイルスは、世界が一つになることを教えている。これが神の計画だ！

● 現代における「知の巨人」『サピエンス全史』のユヴァル・ノア・ハラリ氏、“新型コロナウイルス”についてTIME誌に緊急寄稿！



「リーダーなしの世界に一つの世界のリーダーシップ」を訴える。

● 元英首相が「世界政府」を提案 新型コロナ、医療・経済危機に対応



英国のブラウン元首相は世界の主要国の指導者に対し、一時的に「世界政府」を設立するよう呼び掛けた。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、医療・経済両面での危機に対応するためだという。英紙ガーディアンが26日に報じた。

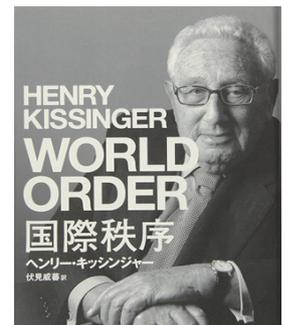
● メルケル 首相

新世界秩序の必要



● キッシンジャー

2020/04/07 - キッシンジャー元米務長官3日、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルへの寄稿で、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大は「世界秩序を永遠に



変えてしまうだろう」と指摘。日本経済新聞 <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO57731180W0A400C2FF8000/>



### ● オバマ前大統領

「すべては**気候変動**による！」

法王が訪米した時フランスシスコ教皇のアジェンダ

(気候変動)を支持したのは彼であった。

WHO も国連も役立たず… コロナ後の“**世界秩序**”はどこへ向かうのか [courrier.jp > news > archives](http://courrier.jp/news/archives)

2020/05/11 - 新型コロナウイルス危機で露呈したのは、世界保健機関 (WHO) も国連も機能不全に陥っている現実だ。戦後の世界秩序を牽引してきたアメリカはリーダーシップを発揮せず、中国は自国の利益追求に走り、国際協調は崩れ去った。米中の対立のなか... バラク・オバマはさらに一步踏み込み、国際社会におけるアメリカの支配が弱まっていることを認めたくて、各国の協力を仰ぐために歩み寄ろうとした。



### ● トルコ・アルバイラク財務大臣

トルコ主要各紙の目玉ニュー

ス】 2020年4月9日

ベラト・アルバイラク財務大臣は、新型コロナウイルス感染症後に構築される新世界秩序に最強の形で参入するためより一層努力すると発表した。アルバイラク大臣はツイッター (Twitter) のアカウントから投稿し、「まずこの感染症を克服する。これを行う際に経済や生産をサポートする」と述べた。 <https://www.trt.net.tr/japanese/torukozhu-yao-ge-zhi-nomu-yu-niyusu/2020/04/09/torukozhu-yao-ge-zhi-nomu-yu-niyusu-2020nian-4yue-9ri-1394346>

「シオンの城 壁の上の見張り人たちは、救い主の来臨の知らせを最初に認め、最初に声をあげてその近いことを宣言し、人々に、その**来臨のための準備をするよう最初に警告**を発すべきであった。しかし彼らは、安易な気持ちで平穩 無事の夢をむさぼっていた。そして人々は、罪のなかで眠っ

ていた。イエスは彼の教会が、葉ばかり数多く茂っているが、貴い実のなっていない、実のないいちじくのような状態であるのを見られた。宗教の形式は遵守してそれを誇っていたが、真の謙遜、悔い改め、信仰の精神は欠けていた。実はこれだけが、神に喜ばれる礼拝であったのである。聖霊の実の代わりに、高慢、形式主義、虚栄、利己心、圧迫などがあらわれていた。背信した教会は、時のしるしに対して目を閉じてしまった。神は、彼らを捨てたり、誠実を曲げたりなさらなかった。しかし、彼らは神から離れ、神の愛から離反したのである。彼らが条件に従うことを拒んだときに、神の約束は、彼らに果たされなかったのである。

神がお与えになる光と特権を、感謝して受けて活用するようにしないならば、必ずこのようになる。 教会が、すべての光を受け入れ、啓示されるすべての義務を行なって、神の摂理の導きに従っていかないならば、**宗教は必ず形式化して、墮落し、**生きた敬神の精神は失われるのである。このことは、教会の歴史において、くり返し起こった。神は、受けた祝福と特権に相応する信仰と服従の行為を、神の民に要求される。服従は犠牲を要求し、十字架を伴っている。多くの自称キリスト信者が、天からの光を受けることを拒み、昔のユダヤ人のように、神のおとずれの時を知らなかったのは、このためである (ルカ 19:44 参照)。彼らが高慢不信であったために、神は彼らを素通りして、ベツレヘムの羊飼いや東方の賢者たちのように、示されたすべての光に心を留めていた人々に、神の真理をあらわされたのである」大争闘上 405、406。

「ユダヤ人は、神のみことばの解釈とその適用とを誤り、彼らはおとずれの時がわからなかった」1 希望 285。

「もしイスラエルの指導者たちが、キリストを受け入れていたら、イエスは、世に福音を伝える使者となる榮譽を彼らにお与えになったのである。神の国と恩恵とを告げ知らせる者となる機会は、最初に彼らに与えられた。しかしイスラエルはおとずれの時を知らなかった。ユダヤ人の指導者たちのねたみと不信は、公然たる憎悪心へ発展し、民の心はイエスから離れた」1 希望 285。

# 6千年の地上歴史が非常に近い研究

1. 週千年大時計の研究
2. 聖書の年代記の研究
3. ヨベルの年の研究
4. ダニエル 12 章の研究
5. 自然界の事物の観察 - 植物、鉱物、油、ナイヤガラ滝、珊瑚等々の研究は、6,000 年以上のものを示していない証拠であるという。

世界歴史の数え方(計算)は、B.CとA.Dを用いられることはよく知られている。B.Cは、英語でBefore Christの略だ。A.Dはラテン語でAno Domini(我らの主の年)の略だ。紀元前、紀元後という。誰を中心として歴史を二つに分けているのだろうか。いうまでもなくイエス・キリストである。アダムから連続して数える場合は、Ano Mundi (アノ・ムンディ=世界の年)という。歴史のことを英語でHistory(ヒストリー、ヒズ・ストーリー=彼の物語)と言う。このことは皆さんの知っていることだと思う。

ちなみに、#5の地球の年齢のことを挙げておきたい。地球は進化論者が言う、何百万、何千万、何億万年というのではなく、比較的若いことが分かってきた。

「科学の説明が聖書に近づいた」久保有政著、地球史編、「地球は若い」p 165 から科学者の言葉が記載されているので引用してみよう：

米国テキサス大学教授ハロルド.S.スラシャー：

「宇宙塵の堆積年数は、数十億年というより、むしろ5～6千年にしかならないことが分かります」「インパクト」No29p,3

デュアン.リチャード.T.ギシュとリチャードB.ブリス博士：

「放射能崩壊からヘリウムが大気に加わる率で測定するなら…地球の年齢は約一万年です」同誌

スチュアートE.ネヴィンス博士：

「海洋は、約一万年、またはそれよりも、もっと若いものと信じるのは、たいへん理にかなっている」同誌

アメリカの著名な科学者トーマス.G.バーンズ博士：

「過去一万年以内に、地球に大きな磁石を始動させるような地球物理学的方法は知られていないので、磁石の起源は、地球の創造と同時に起こったという結論になります。したがって地球の年齢は一万年以内ということになります」同誌





**のために勝利なされた。**

「一人でサタンに対処するため荒廃した荒野に入られたときの**第二のアダム**は、何と対照的なことか。墮落以来人類は、キリストが地上に来られる頃には身体の大きさと力が減少し、道徳的力も低下していた。そして墮落した人間を高めるために、キリストは自ら人間のいるところまで下らなければならなかった。彼は人性をお取りになり、人類の弱さと退化を負われた。我々のために、罪を知らないお方が罪となられた。彼は人間の悲惨の最も深い所にまでへりくだられた。それは、彼が人間に到達することができ、罪が投げ込んでしまった退化から人類を引き上げるためであった」 RH 1874年7月28日。

参考のために第一アダム、第二アダムについて記しておこう。1コリント 15:45、47

「注意しなさい。キリストの人性について考える場合、ことのほか注意しなさい。罪の傾向を持った人として、彼を人々に示さないようにしなさい。彼は**第二のアダム**である。**第一のアダム**は、罪の汚れを帯びていない、純潔で罪のない者として創造され、神に似る者であった。彼には墮落する可能性があり、事実、罪を犯して墮落した。罪の故に彼の子孫は、生来の不従順の傾向をもって生まれてきた。しかしイエス・キリストは、神のひと

り子であられた。彼は人性をその身に負われ、人としてあらゆる点で誘惑を受けられた。罪を犯して墮落する可能性はあったが、彼の内には、一瞬たりとも悪の傾向がなかった。エデンでアダムが攻撃されたように、彼は荒野において誘惑を受けられた」スタディーバイブル新 207、208。

「**第一のアダム**は墮落した。**第二のアダム**は、最も試みの激しい状況下で神とみ言葉にしっかりつかまり、天父の善と憐れみと愛に対する信仰は、一瞬たりとも揺るがなかった」。

「**第二のアダム**は、自分の行いに責任を持つ、道徳的自由意志の持主であられた。非常に巧妙で人を迷わすような影響下であって、彼は**第一のアダム**が罪のない生活を送ることができたよりずっと不利な状況にあった。けれども罪人たちのただ中であっても、彼は、すべての罪の誘惑に抵抗して、ご自分を清く保たれた。彼には全く罪がなかった (SW 1903年9月29日)」スタディーバイブル新 334。

「神にあって有利な立場にいる人間—**第一のアダム**に言われた通り、人間はアダムから罪と死の宣告以外の何も受けていない」スタディーバイブル新 335。

それに、最近初めて、この問題について研究している時に見つけた証の書も合わせるとはっきりしてきた。





「苦痛と死は今日至る所に広く存在し、特に年少者の間に多い。現代の人々と、**最初の二千年間に生存した人々**の相違は何と大きいことであろう (3T 140, 141, 1872 年)」食事と食物に関する勧告 # 195。



「サタンはすべてのものがどちら側に立つかを決める時に、最後の大争闘のために彼の計画を忙しく練っている。**福音が全世界に二千年近く伝えられてきた**。サタンは、キリストの提示した同じ光景をすべての人に提示するであろう。驚くべきパノラマで、彼は人々の前にこの世の王国の栄光を示すであろう。…彼は、神の王国の魅了する光景を提示するであろう。そして、これらは神の王国の光景であると主張するであろう。そうだろうか？いいえ決してそうではない」Manuscript 122,1898。



「サタンの反逆の働きは、**6000年の間**『地を震わせ』た。彼は『世界を荒野のようにし、その都市をこわし』た。彼は『捕えたものをその家に解き帰さなかった。』**6000年の間**、神の民は彼の牢獄に入れられてきた。…**1000年の間**、サタンは荒れ果てた地上をさ迷い歩いて、自分が神の律法に反逆した結果を眺める。この間のサタンの苦しみは非常なものである。サタンは、だらくして以来、たえず働き続けて、反省する暇がなかった。所が今は、力をうばわれ、最初に天の政府に反逆して以来自分がどんなことをしてきたかを熟考させられる」1888年, 大争闘下 443。

## 信じがたい研究だ?! あと残すところ7年?

2027年に地上歴史6千年が終わるとすれば、あと7年しかない。あまりにも衝撃的な、狂信的な説だとびっくりさせられた。Dr. ファイトは、キリストの再臨が2027年にあると断定してはいけなく、正確な日時 (exact time) は誰も知らないが、ただ時は非常に短いと力説している。

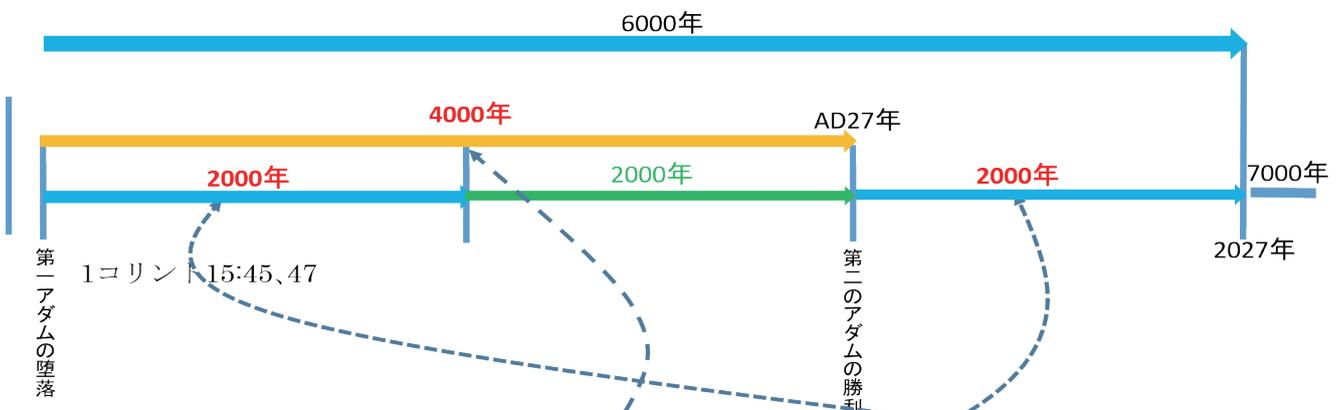
当然こういう研究には反論が来る。いろいろな反論があるようだ。私自身もまず、疑問がわいてきたのは、7年間に福音伝道は終わり得るだろうか。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」マタイ 24:14。アンドリュース大学の教授が言ったことがあった。今のような伝道の仕方では、500年たっても伝道は終わらないであろうと。延々と年間伝道計画がなされ、再臨信徒の葬式が絶えないだろう。

しかし、神は短期間に、働き人を驚かされる、単純な方法でみ業を成し遂げられると言われている (参照、聖霊に導かれて上 36)。

## 「週千年大時計」

### Prophecy Research Initiative フランクリン.S. ファウラー Jr. M.D. の研究を紹介しよう :

#### 図表化



「苦痛と死は今日至る所に広く存在し、特に年少者の間に多い。現代の人々と、**最初の二千年間に生存した人々**の相違は何と大きいことであろう。(3T 140, 141, 1872 年) 食事と食物に関する勧告 # 195

「**試みの荒野**で、キリストはアダムが耐え損ねたテストに耐えるため、アダムの立場に立たれた。ここでキリストは、アダムが家郷の光に背を向けてから**四千年後**、罪人のために勝利なされた」スタディーバイブル新42。

「サタンはすべてのものがどちら側に立つかを決める時に、最後の大争闘のために彼の計画を忙しく練っている。**福音が全世界に二千年近く伝えられてきた**。サタンは、キリストの提示した同じ光景をすべての人に提示するであろう。驚くべきパノラマで、彼は人々の前にこの世の王国の栄光を示すであろう」。Manuscript 122,1898,

創世記1章に6日間で地球を創造され、神の一大傑作一人間を「神のかたちにかたどって」造られて創造の業を終わられた。そして、「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。夕となり、また朝となった。第6日である」創 1:31。その後、特別なことが起こった!!!

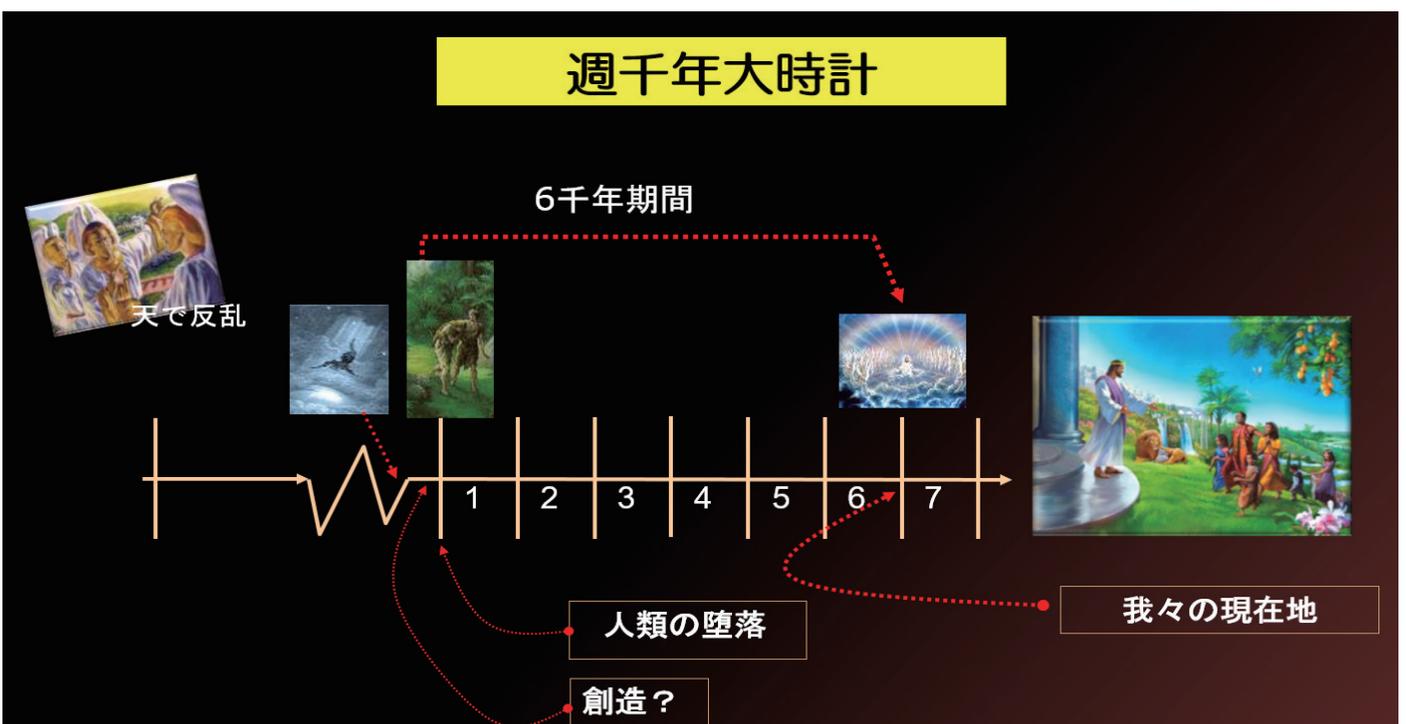
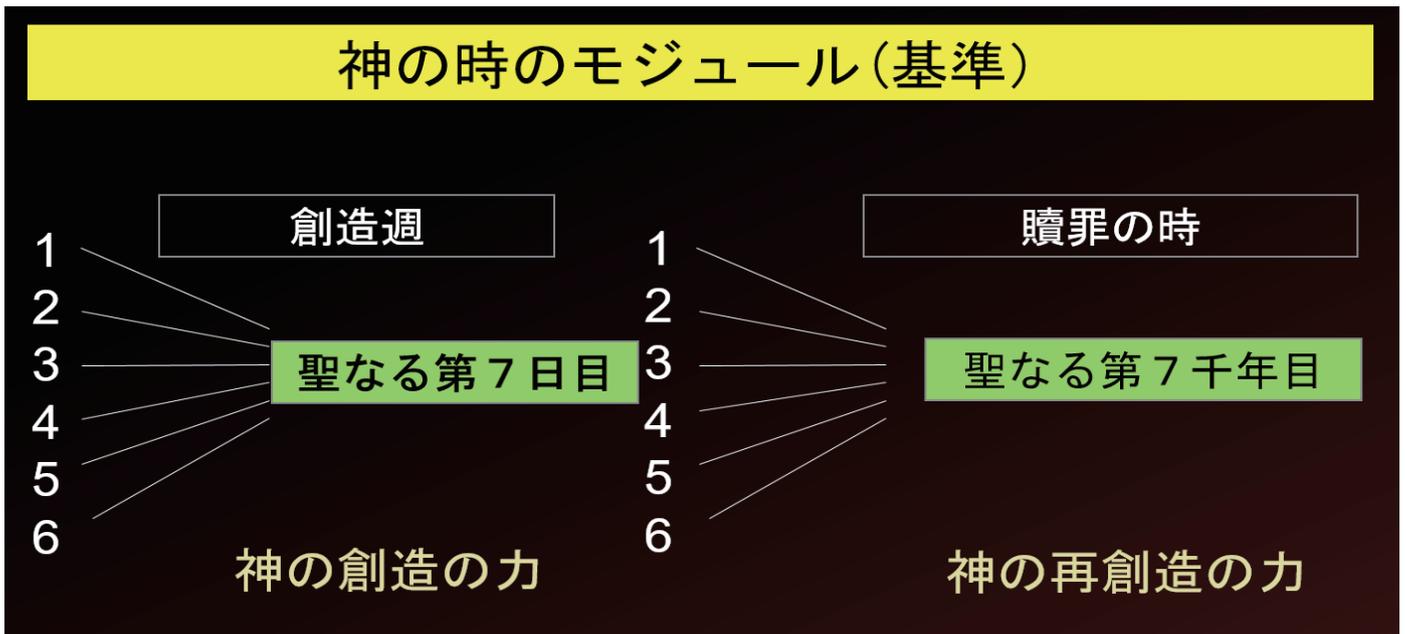
「神は第7日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第7日に休まれた。神はその第7日を祝福して、これを聖別された。神がこの日

に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである」創世記2:2-3。

特別に聖別された第7日安息日!!!

この創造週が地球歴史のモジュール、ひな形、モデルとなるというのである。

言葉よりも図表化すると印象的なので紹介する。



# 地上歴史 6 千年説を信じてきた人々

## 教父たちの考え



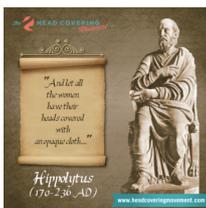
**ユスティノス** (100-105) キリスト教神学者。

詩篇 90:4;2 ペテロ 3:8 を1日は、1000年と解した。Dialogue with Trypho, Chapter LXXXI.



**イレナエウス** (A.D.120-202)

「数日のうちに造られたこの世界は、数千年のうちに終わるのである…これは、以前に創造されたものの記述であり、来るべきものの預言でもある。…それらは6千年目におわるであろう」。 (Heresies V. XXVIII, 3)



**ヒッポリツス** ギリシア教父 236年没。

「安息日は、未来の聖徒たちの王国の予型であり、象徴である。千年期はヨハネが言うように、キリストが来臨なさる時から始まる千年王国である。創造の1日が、1千年と連結しているように、神がすべてのものを造られた6日間は地球歴史の6000年と連結するものである」 Hippolytus, Fragments from Commentaries, Sections on Daniel 2, chapter 4).

その他の教父： キプリアヌス、ラクタニウス…

## ユダヤ人百科事典

「あなたの目の前には千年も…きのうのごとく」(詩編 90 : 4) という聖句は現在の苦勞の多い世界に続いて安息の千年期、「来るべき世界」がやってくるとの考えを示唆している。ユダヤ人百科事典、vol.p.211

## バルナバ書の手紙 (紀元 150 年)

「私の子らよ、『6日間で終えた』という言葉が意味するのはどういうことかよく考えよ。それは、6千年の間に、主はすべてのものを終わらせるということである」バルナバ 15 : 5,35。

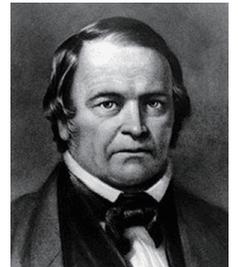
## 教父たちの後も……

ジョセフ・ミード 17世紀の解説者 Joseph Mede、アダム・クラーク (1762年 - 1832年) イギリスのメソジストの神学者、ギボン、バンヤンのような神学者…

## 再臨運動者たち

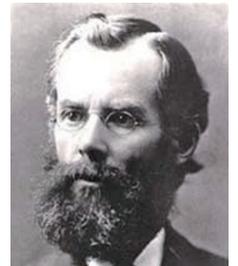
再臨運動の先駆者

**ウィリアム・ミラー**



**J.N. アンドリュース**

エレン .G. ホワイトは、彼を 「敬虔で有能な聖書学者」「不撓不屈の聖書研究者」と評した。MRvol5,436



彼は7か国語で聖書を読める人であった。

「週千年大時計、あるいは人類の恩恵期間と裁きに割り当てられた7千年」という記事がレビュー&ヘラルド誌に6回連載として出たことがあった。RH The Great Week of Time, RH, 8/2-1883.

彼は、2ペテロ 3 : 8 とレビ記 25 : 1 - 7 の聖句から1日を1千年と解説している。

“Even at the Door” by G.Edward Reid に引用。

セブンスデー・アドベンチストの神学校のメッカともいうべき、アンドリュース大学は、彼の名にちなんで命名された。



## 最近の SDA 神学者



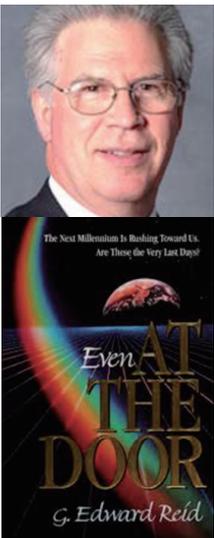
「近年になって、**Dr. ウィリアム・シェー**も同じ解説をしている。

私が知っている 7 千年説を唱える学者や研究者たちは、2 ペテロ 3:8 と詩篇 90:4 に基づいて解説している。

① それを支持している人と、

② この聖句は、そんなことを言っていない。この聖句の言わんとしているところは、神は永遠のお方ということ言っているのであって、人間の考える時のことを言っているのではないという、二つの考え方がある。

どの見解が正しいのであろうか？私の研究からは、2 番目の見解を受け入れることはできない” “Even at the Door” by G.Edward Reid に引用。

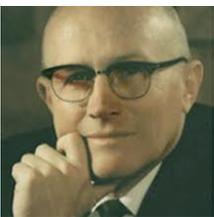


**G. エドワード・リード**は、Even at the Door に詳しく説明している。

アドベンチスト・ライフ

1984 年 10 月 31 日、「創造 6 千年説再考」からの引用：

「1966 年ピアソン総理になると、彼は人類の歴史を 6 千年以上とすることは預言の霊による啓示に反するものとしてこれを退けた (We still believe p 58,63)」



ということは、敬神深い**ロバート・ピアソン**総理までは、地上歴史 6 千年が信じられていたということである。

**ノーマン・ガーレー**も地上歴史 6 千年説を信じていた再臨運動の先駆者の名前を挙げている。O. R. L. クロージャー、ジョセフ・ベーツ、ジェームス・ホワイト、T. M. プレーブル、W. H. リトル、ジョーンズ、S.N. ハスケルなど (Will Christ Return in the Year 2000? Norman R. Gulley Southern Adventist University)。



1. 1864 年 3SG92 聖書の記録を信じると称する多くの者が、地上に見られる様々なすばらしい事すなわち創造の週は字義通りの 7 日間であり、この世界は現在**約 6000 年**にすぎないという見解に対し、言葉を詰まらせている。
2. 1868 年 2T172 **6000 年近く**に及ぶ経験を積んだ彼 (サタン) は、その腕前と狡猾さを一つも失っていない。その間、彼は人類に関するすべての緻密な観察者であった。
3. 1872 年 3T138 神は人間に、ゆがめられた習慣の結果、又それが**6000 年**も続いてきた結果人間にもたらされた病気の積み重ねに耐えられるほどのすばらしいバイタルフォース (活力) を与えられたのだった。
4. 1872 年 3T492 **6000 年もの間**、人間が絶えず犯して (神の律法を) きたため、その (実) 結果として、病、痛み、死がもたらされた。我々が終りに近づくにつれ、食欲をほしいままにさせるサタンの誘惑はもっと強くなり、克服するのがもっと困難になるであろう。
5. 1877 年 2SP93 **6000 年の間**、この大敵は神の政府に対して戦いつづけてきた。そしてたゆみなく継続してきたことにより、欺いてそのかす彼の技能はますます磨きがかかっている。
6. 1884 年大下 306、4SP371、S.R394 このように新しい変装の下に、大反逆者サタンは、天において始まり、地上において**6000 年近く**続いている、神に対する彼の戦いを依然として続けるのである。
7. 1888 年 大上序 7 かつて神の天使の中で最高の地位にあった偉大な頭脳の持ち主が、**6000 年間**欺瞞と滅びの働きに全力を傾けてきた。この長年の争闘の間に、サタンが身につけた腕前と狡猾さ、又その間ますますひどくなった残虐さのあらん限りを尽くして、彼は最後の争闘において神の民に迫るのである。
8. 1888 年 大下 260 **約 6000 年近くも**続けられてきたキリストとサタンの間の大争闘は、間

もなく終わる。

9. 1888年 大下 439 大争闘は **6000年** にわたって続いてきた。
10. 1888年 大下 443 サタンの反逆の働きは、**6000年の間** 『地を震わせ』た。彼は『世界を荒野のようにし、その都市をこわし』た。彼は『捕えたものをその家に解き帰さなかった。』**6000年の間**、神の民は彼の牢獄に入れられてきた。…『**1000年の間**、サタンは荒れ果てた地上をさまい歩いて、自分が神の律法に反逆した結果を眺める。この間、サタンの苦しみは非常なものである。サタンは、墮落して以来、たえず働き続けて、反省する暇がなかった。ところが今は、力をうばわれ、最初に天の政府に反逆して以来自分がどんなことをしてきたかを熟考させられる。
11. 1888年 大下 460 サタンの破壊の働きは、永久に終りを告げた。**6000年の間**、彼は自分の意志を実行し、地を災いで満たし、全宇宙を悲しませてきた。被造物全体が共にうめき、共に生みの苦しみをしてきた。今や神の被造物は、サタンの存在と誘惑から永久に解放された。
12. 1890年 あ上 27 過去 **6000年の間**、人間が研究を続けてきた自然の法則と作用は、万物の創造者であり、維持者である無限のお方によって、彼らに知らされた。
13. 1890年 あ上 403 贖罪の大いなる計画は、この世界を完全に神の恵みの下に引きかえす。罪によって失われたすべてのものが回復される。人間ばかりでなく、地も贖われて、従順な者たちの永遠のすみかとなる。**6000年の間** サタンは地の所有を維持しようと努力してきた。だが今や創造当初の神のみ旨が完成される。
14. 1890年 CH19 人間は創造主のみ手によって造られたときには、その組織も完全で、かたちも美しかった。人間が **6000年間** のますます増し加わる病気と悪の重荷にもちこたえてきた事実は神が最初に与えられた耐久力がどれほどのものであったかを実証している。
15. 1898年 希中 181 **6000年の間**、信仰はキ

リストの上に築かれてきた。

16. 1898年 希中 181 **6000年の間**、サタンの怒りという洪水と嵐が我らの救いの岩なるキリストを襲った。だがそれは動かされることなく立っている。

## 聖書年代記の計算

※ブラントリー・グリーンロー氏の計算です。参照にしてください。

### 創世記

- |         |                                     |       |
|---------|-------------------------------------|-------|
| 5:3     | アダムは 130 歳に…男の子を生み、その名をセツと名づけた。     | 130 年 |
| 5:6     | セツは 105 歳になって、エノスを生んだ。              | 105 年 |
| 5:9     | エノスは 90 歳になって、カインを生んだ。              | 90 年  |
| 5:12    | カインは 70 歳になって、マハラレルを生んだ。            | 70 年  |
| 5:15    | マハラレルは 65 歳になって、ヤレドを生んだ。            | 65 年  |
| 5:18    | ヤレドは 162 歳になって、エノクを生んだ。             | 162 年 |
| 5:21    | エノクは 65 歳になって、メトセラを生んだ。             | 65 年  |
| 5:25    | メトセラは 187 歳になって、レメクを生んだ。            | 187 年 |
| 5:28,29 | レメクは 182 歳になって、男の子を生み、…その名をノアと名づけた。 | 182 年 |
| 7:6     | さて洪水が地に起った時、ノアは 600 歳であった。          | 600 年 |

---

**合計 1656 年**

アダムが罪を犯してからノアの洪水が起こるまで **1656年** である。

### 創世記

- |       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 9:28  | ノアは洪水の後、なお 350 年生きた。               |
| 9:29  | ノアの年は合わせて 950 歳であった。そして彼は死んだ。      |
| 11:10 | セムは 100 歳になって洪水の 2 年の後にアルパクサデを生んだ。 |

ノアは、セム、ハム、ヤペテの3人の子を生む。

欽定訳では、口語訳、新改訳、新共同訳と違って、セムの兄ヤペテと言っている(創世記10:21)。

セムの系図に移る。

## 創世記

- 11:10 セムの系図は次のとおりである。セムは100歳になって洪水の2年の後にアルパクサデを生んだ。 2年
- 11:12 アルパクサデは35歳になってシラを生んだ。 35年
- 11:14 シラは30歳になってエベルを生んだ。 30年
- 11:16 エベルは34歳になってペレグを生んだ。 34年
- 11:18 ペレグは30歳になってリウを生んだ。 30年
- 11:20 リウは32歳になってセルグを生んだ。 32年
- 11:22 セルグは30歳になってナホルを生んだ。 30年
- 11:24 ナホルは29歳になってテラを生んだ。 29年
- 11:26 テラは70歳になってアブラム、ナホルおよびハランを生んだ。 70年
- 17:1 アブラムの99歳の時、主はアブラムに現れて言われた、「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。 99年

## 合計 391年

洪水後からアブラハムとの契約まで391年である。

次のタイムラインは、アブラムとの契約から始まる。エジプトに寄留する期間を加えていく。

## ガラテヤ人への手紙

- 3:15 兄弟たちよ。世のならわしを例にとって言おう。人間の遺言でさえ、いったん作成されたら、これを無効にしたり、これに付け加えたりすることは、だれにもできない。
- 3:16 さて、約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである。それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとり(あなた)をさして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである。
- 3:17 わたしの言う意味は、こうである。神

によってあらかじめ立てられた契約が、430年の後にできた律法によって破棄されて、その約束がむなしくなるようなことはない。

## 出エジプト記

- 12:40 イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、430年であった。
- 12:41 430年の終りとなって、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。

**1656 (洪水まで) +391 (アブラハムの契約まで) +430 (イスラエルのエジプト滞在期間) = 2477年**

イスラエルが王朝時代になる：サウル王、ダビデ王、ソロモン王

列王上 6:1 「イスラエルの人々がエジプトの地を出て後 480年、ソロモンがイスラエルの王となって第4年のジフの月すなわち二月に、ソロモンは主のために宮を建てることを始めた」。

ソロモンの神殿建設が即位後 4年であるから、ソロモンの即位は 480年 - 4年 = 476年となる。

**2477年 + 476年 = 2953年**

ソロモンがエルサレムで全イスラエルを統治した期間は、40年。

歴代下 9:30 「ソロモンはエルサレムで 40年の間 イスラエルの全地を治めた。ソロモンはその先祖たちと共に眠って、父ダビデの町に葬られ、その子レハベアムが代って王となった」。

**2953年 + 40年 = 2993年**

**イスラエルは、ソロモンの40年間の統治後3年経って、二つの国に分裂する**

- ユダ(2部族)は、ソロモンの子レハベアムによって統治される。
- イスラエル(10部族)は、ヤラベアムによって統治される。

歴代下 10章、列王上 12:1-20 参照。

さなければならぬ。

## エルサレムのユダの王たちの統治期間

レハベアムからゼデキヤまで全部合わせる。ネブカデネザル王によって捕らえられた最後の王はゼデキヤであった。

### 歴代志下

12:13	レハベアム 17 年間	17 年
13:1,2	アビヤ 3 年間	3 年
16:13	アサ 41 年間	41 年
20:31	ヨシャパテ 25 年間	25 年
21:5	ヨラムは位についた時三十二歳で、エルサレムで八年の間世を治めた。	8 年
22:2	アハジヤ 1 年間	1 年
22:12	ヨアシ 6 年間「こうしてヨアシは神の宮に隠れて彼らと共にいること六年、その間アタリヤが国を治めた」。	6 年
24:1	ヨアシ 40 年間	40 年
25:1	アマジヤ 29 年間	29 年
26:3	ウジア 52 年間	52 年
27:1	ヨタム 16 年間	16 年
28:1	アハズ 16 年間	16 年
29:1	ヒゼキヤ 29 年間	29 年
33:1	マナセ 55 年間	55 年
33:21	アモン 2 年間	2 年
34:1	ヨシア 31 年間	31 年
36:2	エホアハズ 3 か月	0.25 年
36:5	エホヤキム 11 年間	11 年
36:9	エホヤキン 3 か月と 10 日	0.25 年
36:11	ゼデキヤ 11 年間	11 年

**合計 393.5 年**

すべての 20 人の王たちの年代を合計すると、396.5 年になる。

しかし、エホヤキム、エホヤキンとゼデキヤは、ネブカデネザル王によって 3 回包囲された間、ユダを統治していた。ということは、ゼデキヤの統治の終わりを 70 年の捕囚期間のスタートとすることはできないことを意味する。捕囚期間は、エホヤキムの統治から始まっており、二つの期間が重なり合っている。

従って、重なり合っているところを計算して、タイムラインからその期間を差し引いて始めと終わりを正

「ネブカデネザルが、エホヤキムの治世の初期に第一回目のエルサレム包囲と攻略を行い、特別にバビロンの宮廷で仕えるためにダニエルと彼の仲間たちを連れ去っていったときに、ヘブルの捕虜たちの信仰は極度の試練を受けた。家庭で受けた教育が彼らの信仰を強め、天地の創造主であられる生ける神に忠実に仕えるものにしたのである」  
国と指導者下 48。

スタディーバイブル旧約、エレミヤ 25:11、12 のエレン .G. ホワイトの注解：

『**エホヤキムの 4 年**』に、**ダニエルがバビロンに捕らえられたすぐ後**、エレミヤは主の言葉に注意を払わなかった罰としてユダヤ人の多くが捕囚となることを予告した。カルデア人は、神がご自身の不服従な民を懲らしめるための器として用いられた。その刑罰は、彼らの知性と軽蔑した警告に比例するのであった。『この地はみな滅ぼされて荒地となる。そしてその国々は 70 年の間バビロンの王に仕える。主は言われる、**70 年**の終わった後に、わたしはバビロンの王と、その民と、カルデア人の地を、その罪のために罰し、永遠の荒地とする』と預言者は宣言した。

従って、ダニエルとその同僚たちがバビロンに連れていかれた、エホヤキムの統治第 4 年から、ユダの捕囚、70 年間の始まりとしなければならない。

エホヤキムの統治 **11 年**

エホヤキンの統治 **0.25 年** = 3 か月と 10 日

ゼデキヤの統治 **11 年**

**合計 22.25 年**

合計すると、22.25 年となる。

重なり合っているところを計算すると：

**393.5 年 (20 人の王たちの統治) - 22.25 年 (3 人の王たちの統治) = 371.25 年**

それに + **3.75 年 (エホヤキンの統治)** を足すと、**375 年**

ソロモン王の統治の終わりから計算して 375 年となる。

## 2993年 + 375年 = 3368年

ユダのバビロン捕囚の時から数えるべき次のタイムラインは、**エレミヤ記 25:9,11**に見ることができる：

「見よ、わたしは北の方のすべての種族と、わたしのしもべであるバビロンの王ネブカデネザルを呼び寄せて、この地とその民と、そのまわりの国々を攻め滅ぼさせ、これを忌みきらわれるものとし、人の笑いものとし、永遠のはずかしめとすると、主は言われる。……この地はみな滅ぼされて荒れ地となる。そしてその国々は**70年**の間バビロンの王に仕える」。

「ダニエルの祈りは『ダリヨス……の治世の第一年に』捧げられた(同 9:1,2)。ダリヨスはメデアの王で、その將軍クロスはバビロンから世界的支配権を奪ったのである。ダリヨスの治世は、神から栄誉を受けた。「彼を強め、彼を力づけ」るために、天使ガブリエルがダリヨスのところにつかわされた(同 11:1)。**バビロンが滅びて約二年足らずで彼は死に、クロスが王位についた**。そして彼の治世が始まるとともに、**ネブカデネザルがヘブル人の最初の一団をユダヤの故郷から、バビロンに連れていった時から70年が経過したのである**」  
国と指導者下 164-165。

## 3368年 + 70年 = 3438年

バビロンからの最初のユダヤ人の解放はクロス大王によるものであった。ここから、世俗の年代記**536BC**を使うことができる。536BCから聖書に出てきた年代記を紀元前で逆算して過去を見、未来を見てみよう：

キリストがバプテスマを受けた年は、紀元後27年(A.D.)。それまで**562年**。

## 3437年 + 562年 = A.D.27年

# ヨベルの年の研究

地上歴史6000年説が正しいとヨベルの年の研究からも分かるという。ヨベルも年代記と連動して正確に最後のヨベルの年が2027年となる。

「悩みの時に、われわれはみな、町々村々から逃れたが、悪人たちは追いかけてきて、聖徒たちの家に剣をもって入ってきた。彼らは、われわれを殺そうとして剣を振りあげたがそれは折れて、わらのように弱々しく地に落ちた。そのとき、われわれはみな、昼も夜も救いを叫び求めた。そしてその叫びは神のみ前に達した。太陽が昇った。そして、月は止まった。川の流れは止まった。黒雲が現れて、互いにぶつかり合った。

しかし、栄光の輝く晴れわたったところが一か所あって、そこから多くの水の音のような神の声が聞こえてきて、天地を震動させた。空は開いたり閉じたりして動揺していた。山々は風にそよぐ葦のように揺れ、あたり一面にごつごつした岩石を投げ出した。海はるつぽのように



えたぎり、石を陸上に投げ出した。そして、神がイエスの再臨の日と時間とを告げ、ご自分の民への永遠の契約を宣言されたとき、神はひとくぎりずつ語って、間をおかれた。み言葉はその間に全地に鳴り響いた。神のイスラエルは天を仰いで立ち、大きな雷のように地に鳴り響く主のみ口から出る言葉に、耳を傾けた。それはまことに荘厳そのものであった。

聖徒たちは一つの文章が終わるごとに、『栄光あれ、ハレルヤ!』と叫んだ。彼らの顔は神の栄光に輝いていた。彼らは、シナイ山からおりて来た時のモーセの顔のように、栄光に輝いていた。悪人たちはあまりの輝かしさのために、彼らを見ることができなかった。そして、神の安息日を清く守って神に栄光を帰した人々に永遠の祝福が宣言されたとき、獣とその像とに対する大いなる勝利の叫びがあがった。

それからヨベルの年が始まり、地は休まねばならなかった。わたしは、信心深い奴隷が彼をつないでいた鎖をふるい落として、意気揚々と勝利のうちに立ち上がるのを見た。他方、彼の邪悪な主人はあわてふためいて、そのなすところを知らなかった。悪人たちは神の語られた言葉を理解することができなかったからである。まもなく大きな白い雲が現れた。それはこれまでのどんなものよりも美しく見えた。その上に人の子が座っておられた」初代文集 93-95。

ヨベルの年の研究は別の機会にしたい。読者の皆様も「新しい光に警戒せよ」の引用文にしり込みしないで、純粋な動機をもって希望をもって研究してください。

## ダニエル 12 章の預言期間について再記載

何回かアンカー誌で取り扱ってきた。

私は、この研究についてはますます、未来適用であり、字義通りの適用に確信を持つようになった。地上歴史 6000 年の研究が浮上して、キリストの再臨が非常に近いことが分かった。この 12 章の研究に関する疑問があるなら、ぜひ遅くならないうちに研究して個人的確信を持っていただきたいと切望するものである。

いったん、米国で日曜休業令が発布されたら、

「米国が新教共和国政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りと惑わしの普及に道を備えるその時こそ、我々は、サタンに驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」5T 451、最終時代の諸事件 42。

決して「確定した時」を設定するのではない。大争闘下 418 にあるように、神ご自身が再臨の日時を宣言なさるまでは「日時」を誰も知らない。しかし、非常に近いことは分かる。どれほど近いかが分かる。

「神の みたまは『みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さる』とある。『被造物全体が、……共にうめき共に産みの苦しみを続けている』とき、限りない天父のみ心は 同情に痛むのである。この世界は広い 貧しい病人の収容所のようなもの

## 6,000 年タイムライン

アダムが罪を犯してから6,000年目に次のヨベルの年が起こる。



で、われわれはその悲惨な光景を心に思うことすら苦痛である。その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。神は、罪とその結果を滅ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。『この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう』教育 312。

「神の忍耐にも限度がある。神の忍耐が限界に達すると、その時神は確実に刑罰を下されるであろう。そして神が僭越な罪人を裁かれるときには、最後まで徹底的になさるのである」伝道 8:11 の注解：スタディーバイブル旧 897。

「かたくなに、神に背き続ける人々に対する神の忍耐の限度が急速に近づいているのである」国と指導者上 243。

「人類が全くサタンの支配下に陥らないようにしているのは、神の抑制力である。神が慈悲と忍耐をもって、悪魔の残酷で悪意に満ちた力を止めておられることを、不従順で恩を知らない者たちは、大いに感謝しなければならないのである。しかし、人間が神の忍耐の限度を越えるとき、この抑制は取り除かれる」大争闘上 25。

雅歌書は叙事詩であり、預言書である。花嫁なる教会が花婿キリストの愛に目覚める時が来る：雅歌書の最後と、黙示録の最後と同じであることは興味深い。

雅歌 8:14 「わが愛する者よ、急いでください。かんばしい山々の上で、かもしかのように、また若い雄じかのようになってください」。

黙示録 22:20 「これらのことをあかしするかたが仰せになる、『しかり、わたしはすぐに来る』。アメン、主イエスよ、きたりませ」。

## STUDY

# これからの研究課題

## 「Much to learn, Much to unlearn」

金城 重博

### 1 セレクトッド 35

「私たちは多くの事を学び (learn)、またさらに多くの事を学びなおさなければ (unlearn 捨て去る) なりません。自分の抱いている考えを決して変える必要はないと思ひ、その意見を変えない人々は、失望するでしょう。自分自身の考えに固執し、決してそれから離れないならば、キリストの祈られた一致に至ることはできません」。

### 初代文集 144

「ある者は真理に接し、一步一步進んでいき、進む度に次に進む力が与えられた。しかし、今や、時はほとんど過ぎ去り、これまで数年かかって学んだことは、

数か月で学ばなければならない。また、彼らは前に学んだ多くのことを捨て去り、多くのことを学ばなければならない。布告が出される時に獣とその像の刻印を受けたくない者は、否、われわれは 獣の制度を尊重しないと明言する決心を、今、しなければならない」。

### RH 1892/12/20

「これ以上真理が示されないとか、我々の聖書の説明には誤りがないという立場をとるような言い訳を誰もしてはならない。ある教理が長年我が民によって真理として保持されてきた事実は、我々の考えが誤りのないものであるという証拠にはならない。時代は誤りを真理にしなさいであろうし、真理は公平であるべきである。自らの見解に従っていなければすべて反対する人々

がいる。そうすることによって、ユダヤ国家がキリストを拒絶したのと同じように、永遠の利益を危険にさらすことになる。神は、私達の意見がテストされ、私達が信仰にいかどうかを見るために生きた聖書を綿密に調べる必要性に気づくように計画しておられる」。

## ◆ 黙示録4章5章は、イエス・キリストの昇天後紀元31年の大祭司としての就任式のことか、それとも1844年10月22日から始まった調査審判のことか？

## ◆ 黙示録6:12、マタイ24:29

### 黙示録 6:12-14

「小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落ちた。天は巻物が巻かれるように消えていき、すべての山と島とはその場所から移されてしまった」。

従来の解釈：1780年5月19日大暗黒日、1775年リスボンの大地震、1833年11月13日落星日

ハンス K. ラロンデル教授 (アンドリュース大学) の言明：

「歴史的な見解に固執しながら、リスボンの大地震、暗黒日、落星は、預言的な意義深い出来事ではないとし、さらなるこれらの預言の成就を見なければならぬとしていると大胆に結論づけている」。

### マタイ 24:29,30

「しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう」。

・中世暗黒時代は 538 年に始まり 1798 年に終わった。

1775 年のリスボンの大地震は、暗黒時代の終了前になる。

・ダニエル 12:1 の国始まって以来かつてない大いなる悩みは、ミカエルが立ち上がり、恩恵期間が終わって後起こる。黙示録 6:12 は、未来適用であるなら、再臨直前に起こる出来事なのか？

・第七の災害と特別な復活

「大地震が起こる。『それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった』(黙示録 16:18)。大空は、開いたり、閉じたりするようになる。神のみ座からの栄光が、ひらめき渡るようになる。山々は、風にゆらぐ葦のように揺れ、ゴツゴツした岩があたり一面に飛び散る。…全地は海の波のように隆起し揺れ動く。地の表面は砕け散る。地の基そのものが崩れつつあるように見える。山脈は沈下していく。人々の住んでいる島々が消えていく。罪悪に満ちてソドムのようにってしまった海港は、怒った水にのまれてしまう。…『一タラントの重さほど』の大きな雹が、破壊の働きをしている(黙示録 16:19, 21)…」大争闘下 414, 415(1911年)。

## ◆ 常供の燔祭

・『常供の燔祭』(ディリー・サクリファイズ)(ダニエル書 8:12)の「燔祭」(サクリファイズ)という言葉は、人間の知恵によって附加されたもので、本文にはないものであることをわたしは見た」初代文集 155。

従って「燔祭」は原語にはなく、翻訳者が追加したものなので消すべきもの。では、「常供」とは何であろうか？

わが教会で、これについての激論があった。然し、主の僕は警告した：

「盛んに争われている問題を解決するために、私の書いたものが主の議論として用いられないようにしてください。『常供』についての自分たちの意見を支持するために私の書いたものに言及するのをやめて頂きたいのです。…『常供』や、兄弟方の間に論争を巻き起こすようなことは、持ち込まないようにしましょう」1 セレクトド 218, 129。原稿 11, 1910 年。

・十四万四千についてと同じように当時は、そのことは論争してはならないと戒められた。しかし、「わ

かる時が来る」ということが示唆されている。

「十四万四千はだれかというような、靈的な助けにならない問題で論争するのは神のみ旨ではない。このことは間もなく、神に選ばれた人にははっきり分かるであろう」ISM 174 (1901年)。

・十四万四千と同じように、今、「時の終わり」に理解される時に来ているのではないだろうか？

「常供」とはヘブル語で「タミード」。意味は「永続するもの」。ダニエル書だけは、名詞として用いられている。わが教会にいまだに一致した見解がない。

- ① 異教主義
- ② キリストの天での仲保 (主流の解釈)
- ③ 安息日

ダニエル 12:11 には、「『常供』が取り除かれ、荒らす憎むべきものが立てられる」とある。我々は、「荒らす憎むべきもの—荒廃をもたらす憎むべきもの」は、日曜休業令と解している。さらに、日曜休業令が立ってから三つのタイムライン (預言期間) が字義通り起こると信じている。字義通りのひと時とふた時と半時 = 1260 日、1290 日、1335 日が近未来に成就する。となれば、「常供」は何であろうか？

ている」患難下 290。

### 質問：

なぜ、7つの封印、7つのラッパ、7つの災害のように、第一の教会、第二の教会…としていないのだろうか？

わが教会のダニエル、黙示録の解釈は漸進的である。時代に応じて必要な時に新しい光が与えられてきた。

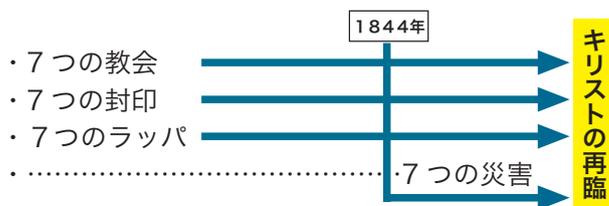
一瞥してみよう：

### 再臨運動の先駆者、ウィリアム・ミラーは、歴史的解釈をした。

イエスの死から、イエスの再臨までと解した。1844年にキリストは再臨なさると信じていたからである。

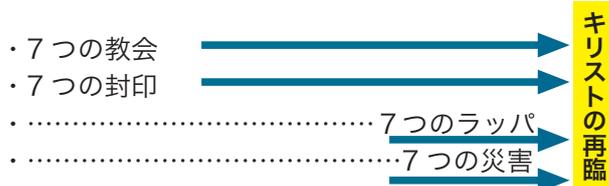


### ユライヤ・スミスもそうであった。が後に変えた。



### マーヴィン・ムーア (サインズ・オブ・ザ・タイムズ編集長)

科学と聖書と E.G. ホワイトから7つのラッパはまだ未来であり、悩みの時の一部であるとする。



## ◆7つの封印、7つのラッパ、7つの教会について

- ① 過去の歴史的解釈—初代教会から再臨までか？
- ② 終末的適用か？

### 7つの教会について：

村上良夫

「三重の解釈・適用ができる。① 1世紀末の教会に実際にあてた手紙。② 教会史上の各時代に当てはめる。③ 現代の私たちに当てはめる」。

### エレン.G. ホワイト：

「7つの教会の名は、西暦紀元の異なる時代における教会を象徴している。7の数字は完全を表し、これらのメッセージが時の終わりまで及んでいることを象徴している。また、用いられている象徴は、この世界歴史におけるそれぞれ異なる時代の教会の状態を表し

# 終末的適用

だんだんと変わってきていることにお気づきと思う。

## 7つの封印について：

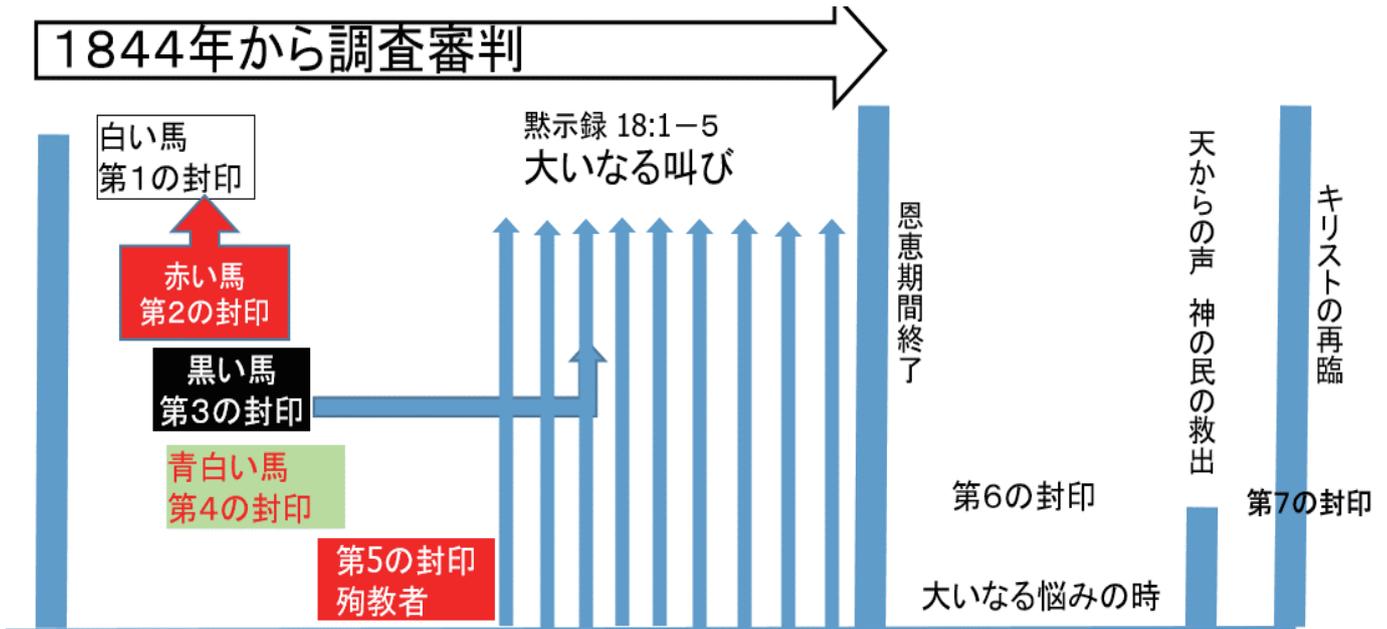
1. ヨハネの時から未来
2. ホワイトの時から未来
3. これからの未来

更なる研究のヒントを挙げておく：黙示録 6 章から

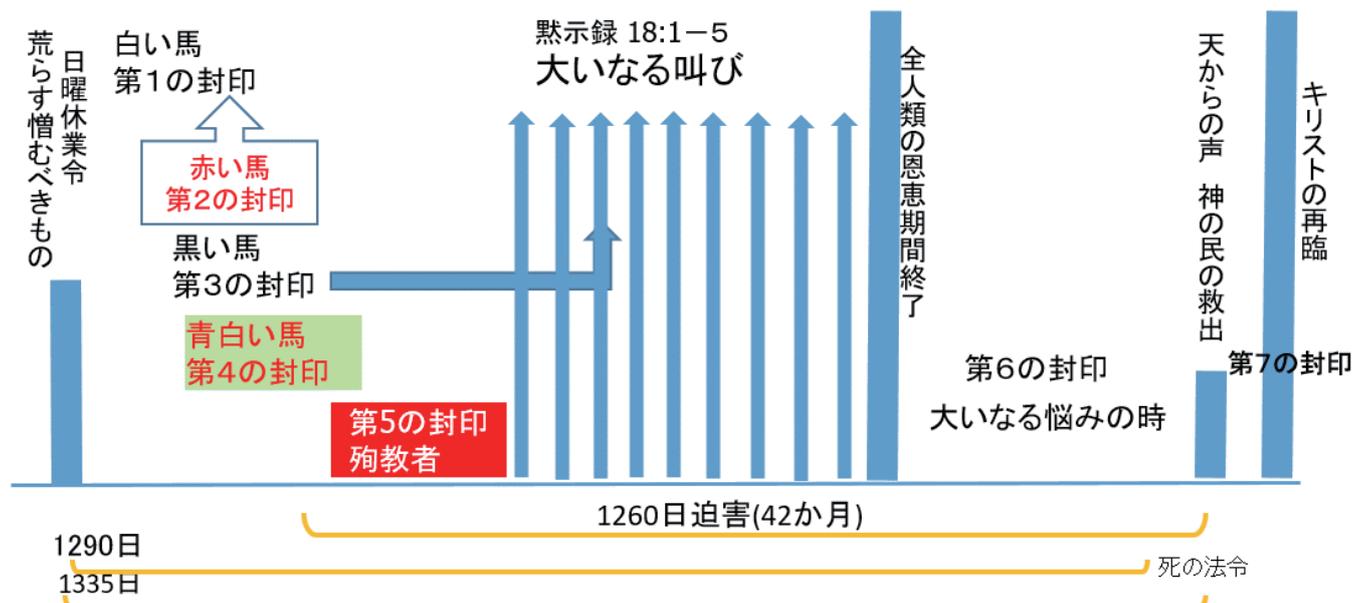
の7つの封印の研究。

## スタディバイブル新 575

「第五の封印の開示—第五の封印が開かれた時、幻の中で預言者ヨハネは、祭壇の下に、神の言葉のゆえに、またイエス・キリストの証のために殺された仲間を見た。この後、黙示録 18 章に描写されている光景が現れた。その時、忠実で真実な者たちは、バビロンから呼び出されるのである。[黙 18 :5 を引用] (MS 39, 1906 年)」。



## 7つの封印 黙示録5章

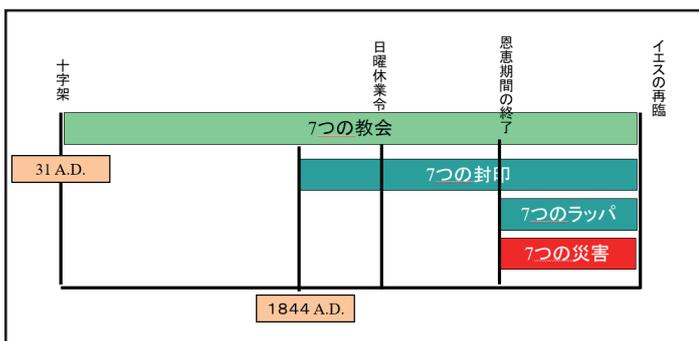
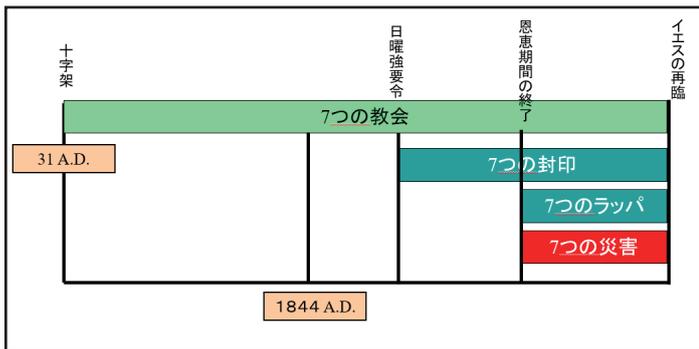


「聖書の中には、特に我々の時代に関係する真理が提示されている。書の預言は人の子が現れる直前の期間に焦点を当てている。その警告と脅迫は特に当てはまる。大終末の前夜まで延びているダニエルの預言的期間は、その時起る諸事件にあふれるほどの光（光の洪水）を投げかけてる。黙示録もまた、最後の世代のために警告と教えに満ちている... 誰も無知のままではいけない。神の日の到来に備えができていないということがあってはならない」 RH,9-25,1883。

## 7つのラッパ、7つの鉢について：

- ① 過去の歴史的解釈—初代教会から再臨までか？
- ② 未来の出来事か？1890年に預言者は次のように言っている：

「聖霊の力が我々の上に臨み、主の軍勢の長が戦闘を指揮するために、天使たちの先頭に立つであろう。我々の前にある厳粛な事件はまだ起こっていない。次々とラッパの音が鳴りわたり、地の住民の上に鉢が次々と注がれる。非常に重大な出来事が我々のすぐそばにきている」 (Letter109,1890年) スタディバイブル新 592。



## ◆ 部分的成就と最終的成就

「エルサレムの滅亡は、世界を襲う最後の滅亡の象徴である。エルサレムの破滅によって部分的成就を見た預言は、もっと直接的には、最後の時代に適用されるべきものである。わたしたちは今、大きな厳粛な事

件の門口に立っている。かつてなかったような危機が目前にある」祝福の山 151。

SDAコメンタリー：「聖書は、二重の適用がなされるべき預言であふれている」。

過去にのみ適用すべきものもあるが、最終時代に優先して適用すべきものが多くある。

## 例：

1. エルサレム滅亡と世の終わり
2. 聖霊降下 ペンテコステー(ホセ6:3;ヨエ2:23,28,29;ゼカ10:1;黙18:1)

「より大きな力で繰り返されるペンテコステーその時以上に大きな力を伴って、ペンテコステの日の出来事が繰り返される時を、私は熱心に切望して待っている」スタディバイブル旧 269。

後の雨 大争闘下 381 ~

3. 1260日/年の迫害 中世時代—1260日の字義通りの迫害時代=近未来 ダニエル12章、黙示録13章 42か月の迫害、世界的迫害 (中世時代の迫害だけではない)。
4. 使徒3:19.20 ペテロが引用しているが、最終的適用は未来。

調査審判 死んだ義人の裁き→生ける者の裁き(近未来) 大争闘下 224

黙示録14:7は黙示録13章の事件が起きてから。文脈から解釈すると。

5. ゼカリヤ3章 スタディバイブル旧 1243

「サタンがヨシュアとその民を責めたように、彼は各時代において、神のあわれみと恵みを求める人々を責めるのである。彼は『われらの兄弟らを訴える者、夜昼われらの神のみまえて彼らを訴える者』である(黙12:10)。悪の勢力から救い出され、その名が小羊の命の書に記録されるすべての魂のために、大争闘がくり返される。敵の徹底的抵抗を引き起こすことなしに、神の家族に加わる者はひとりとしていない」国と指導者下 191。

「ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる」国と指導者下 193 ~ 196。



## 歴史と聖書の預言

各時代の大争闘 E・G・ホワイト

1冊で 950円/冊

10冊以上で 850円/冊

50冊以上で 650円/冊

「各時代の大争闘」の再版で、100冊以上で 500円/冊

商品番号:B20-4 A5サイズ

カラーの写真、絵入りの、読みやすい新しいレイアウトです。現代の真理の書籍中、最も重要なこの本を至るところで木の葉のように散らしましょう。あらゆる欺瞞の中にある現代人に正しい識別力を与え真の希望を与える必読の書。



チャンネル登録をしていただくと最新の動画の通知が届きます。ぜひ活用ください。



サンライズミニストーリーチャンネル  
礼拝説教の字幕動画や時事ニュース、セミナー、ドキュメンタリー動画など聖書に関連した動画を多数配信



サンライズ今帰仁教会安息日ライブチャンネル  
毎週土曜日午前10時より聖書研究と説教メッセージをYouTubeライブ放送中。



サンライズミニストーリー讃美歌専門チャンネル  
讃美歌、その他音楽プログラムを配信中。



サンライズミニストーリー子どもチャンネル  
子ども向けの聖書のお話しや子どもさんびか、動物の話などを配信中。



ショップがリニューアルしました!!



[www.sunriseministry.shop](http://www.sunriseministry.shop)

## 讃美歌集&CD 契約の虹

讃美歌 160 選



商品番号:B70-1 A5サイズ、歌集 1,600円  
:C70-1 CD8枚組 4,000円  
:BC70-1 歌集&CDセット 5,000円

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から160曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全160曲を収録した音楽CDもあります。

## まんが聖書大旅行

デイビット・キム

史実にもとづく資料を取り入れた聖書物語まんが。12巻セット。オールカラープリント



11,760円

商品番号:B42-28 A5サイズ、12巻セット



## 日本人の宗教心 一何が信仰の対象か

及川 吉四郎

1,500円

商品番号:B13-3 A5サイズ

日本人は多民族、宗教も多宗教、「ごっちゃませ宗教」「チャンポン神」と著者は言ってはばかりりません。日本の神道、仏教がいかに変容して来たかに特にメスを入れ、聖書の絶対唯一、創造神に立ち返る以外に救いはないと著者は訴えています。